

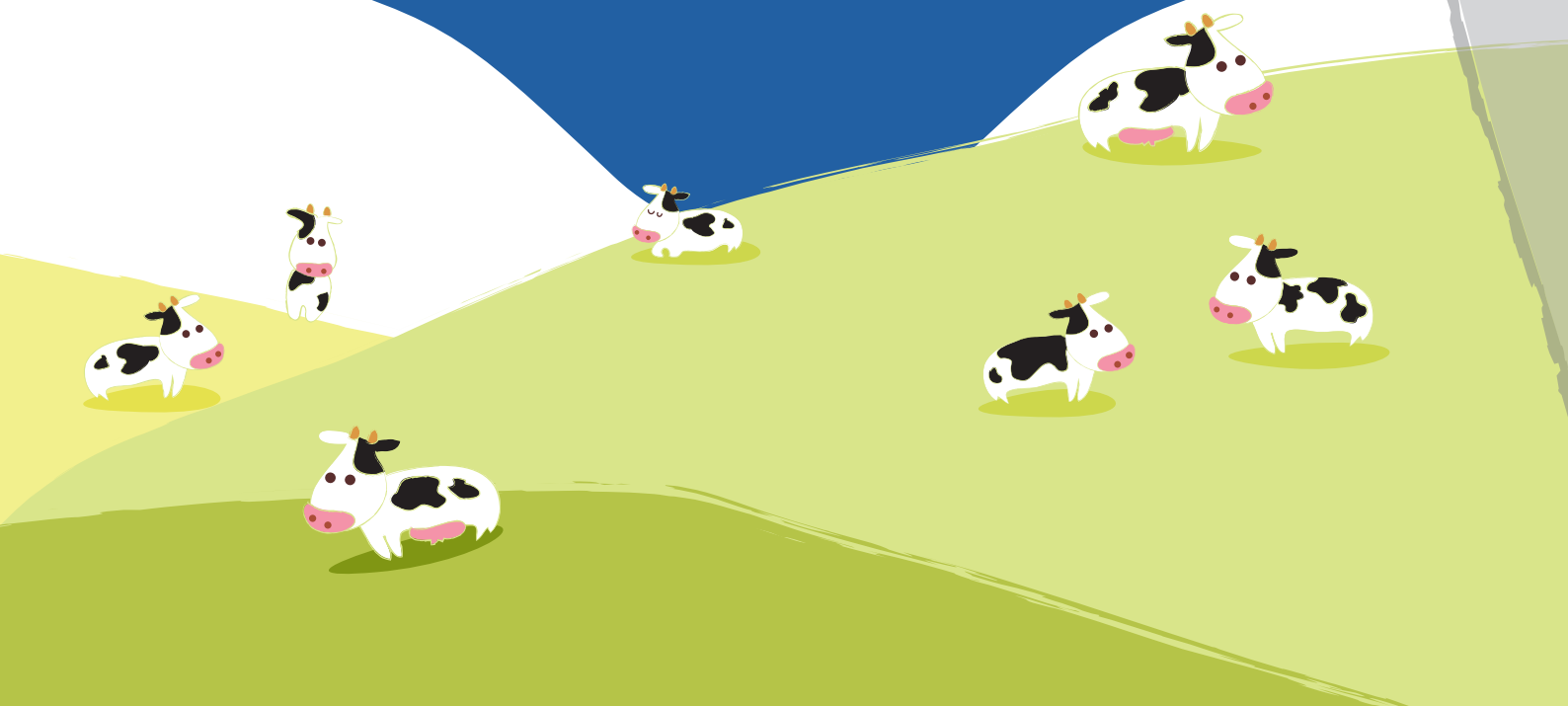


雪印メグミルクグループ



活動報告書 2014

雪印メグミルクグループ CSRの確立に向けて



雪印メグミルクグループ 企業理念

私たち雪印メグミルクグループは、重要なステークホルダーであるお客様・消費者そして酪農生産者の皆様の期待に応えていくこと、私たちの原点である乳(ミルク)にこだわり続けていくことが使命であると考えています。雪印メグミルクグループ企業理念には、この使命を果たすことで社会に貢献する企業であり続けるという私たちの強い思いが込められています。

雪印メグミルクグループの企業理念は、
私たちの使命とコーポレートスローガンで構成します。

私たちの使命

消費者重視
経営の実践

酪農生産
への貢献

乳(ミルク)に
こだわる

私たち雪印メグミルクグループは、3つの使命を果たし、
ミルクの新しい価値を創造することにより、社会に貢献する企業であり続けます。

コーポレートスローガン

未来は、ミルクの中にある。

➡ 編集方針

本報告書は、消費者・従業員をはじめとする全てのステークホルダー※1に雪印メグミルクグループの活動をご理解いただくことを目的とし、雪印メグミルクグループが2013年度(2013年4月から2014年3月まで)に取り組んだ幅広いテーマについて総括するとともに(一部、2014年4月以降の取組みについてもお伝えしたい記事を掲載)雪印メグミルクグループの目指すべき方向性についても掲載しています。また、従業員の想いを「私のチャレンジ」として紹介しています。

1. わかりやすい構成・表現を心がけました

(1) 雪印メグミルクグループはCSR※2経営を掲げており、その内容をまとめて掲載しました。

(2) 説明が必要と思われる内容については補足説明を掲載しました。

2. 社外の声を反映して制作しました

制作段階で企業倫理委員会と、その専門部会である消費者部会、また活動報告書2013アンケートで寄せられたご意見・ご要望も反映しました。

➡ お客様・消費者の併記について

雪印メグミルクグループでは、雪印乳業食中毒事件(p42)の反省を踏まえて、消費者が持つ基本的な権利を尊重し、単に「お客様」だけではなく、「消費者」全体を重視する経営を進めています。消費者の中に「お客様」を位置付けた上で、「お客様」と「消費者」の2つの概念を併記して表現しています。

※1 ステークホルダー：

企業を取り巻く利害関係者。自社の活動に関わる人、そこから影響を受ける人の全てを指します。また地域社会や行政なども含まれます。

※2 CSR：Corporate Social Responsibility
(一般的に「企業の社会的責任」と訳されます。)

おことわり

本報告書には、雪印メグミルクグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご了解くださいますようお願いいたします。

私たちの3つの使命

消費者重視経営の実践

雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた「消費者の権利」と「事業者の責務」をしっかりと認識し、

- 安全で安心していただける商品・サービスを提供すること
- 可能な限りの情報提供、情報開示を行なうこと
- 消費者の声を傾聴し、経営に反映していくこと
- 危機管理の体制を整え、不測の事態に迅速かつ適切に対応していくこと

を基本姿勢として、消費者重視経営を実践していきます。

酪農生産への貢献

私たち雪印メグミルクグループは、日本の酪農を基盤として成り立っています。私たちは、酪農生産者の良きパートナーとして信頼関係を深め、乳の価値をしっかりと伝えていくことで生産者の想いに応えていきます。

そして、牛乳・乳製品の需要拡大を実現することで、国内酪農生産の基盤の強化と持続的発展に貢献していきます。

乳(ミルク)にこだわる

私たち雪印メグミルクグループは、ミルクの持つ無限の可能性を信じ、ミルクに向き合い、ミルクにこだわり続けることで、ミルクの持つ可能性を「深め」、ミルクの価値を「高め」、世界に「拡げていく」ことを実現していきます。

報告対象期間

2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)を対象期間としていますが、一部、2014年度の実績と将来目標についても掲載しています。

報告対象組織

本報告書に記載した情報は、雪印メグミルクグループ(雪印メグミルク(株)およびその関連会社)を対象としています。ただし、対象企業全ての情報を網羅しているわけではありません。また、社名の表記のないものは、雪印メグミルク(株)の取り組みです。

参考にしたガイドライン

- GRI「サステナビリティレポートガイドライン(第3.1版)」
- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- ISO26000(社会的責任に関する手引き)

発行時期

今回の発行:2014年6月

次の発行:2015年6月予定

- 本報告書は、年次版として毎年発行します。

お問い合わせ先

雪印メグミルク(株) CSR部
東京都新宿区本塩町13番地
TEL.03-3226-2064 FAX.03-3226-2163

目次

01 企業理念、編集方針



雪印メグミルクグループのCSR経営

07 雪印メグミルクグループのCSR経営

私たちの3つの使命

09 消費者重視経営の実践

15 酪農生産への貢献

17 乳(ミルク)にこだわる

活動報告

21 地球環境保全への取り組み

27 働きがいのある会社の実現のために

29 雪印メグミルクの食育活動

30 地域・社会への取り組み

CSRマネジメント

31 コーポレート・ガバナンス

33 コンプライアンス

34 リスクマネジメント

35 継続的成長を実現する戦略設備投資

36 雪印メグミルクグループの概要

37 雪印メグミルクグループ グループ会社紹介

38 雪印メグミルクグループ 各社CSRリーダーからのメッセージ

39 国際規格ISO26000と 雪印メグミルクグループ活動との対比

40 補足説明

トップメッセージ

特別インタビュー



雪印メグミルク株式会社

代表取締役社長 **中野 吉晴**

日本経営倫理学会 副会長

慶應義塾大学 准教授 **梅津 光弘氏**

「3つの使命」と「未来は、ミルクの中にある。」を共有し、
社員が誇りを持って、自らの可能性と
未来をかけることのできる強い会社を目指します。

企業倫理学の専門家である梅津光弘慶應義塾大学准教授(以下、敬称略)と中野社長が、
「雪印メグミルクグループのCSR経営と目指す方向」について対談しました。

● はじめに

梅津 私は御社との様々な係わりの中で、雪印乳業の食中毒事件後の真摯な取組みと、雪印メグミルクとして再スタートされたことを高く評価しています。御社の取組みは、海外にも知られるほど徹底的なものであり、CSR経営がしっかりとした枠組みの中で着実に進展していると考えています。

● 社会的責任を果たすことは企業存続の絶対的条件

中野 当社の取組みを評価いただき、ありがとうございます。

当社は前身である雪印乳業の2つの事件で、存続そのものが問われました。皆様大変なご迷惑をお掛けし、社会にも大きな影響を与えました。今、当社が存在するのは、

皆様のご理解とご支援をいただき、「もう一度、社会に貢献する」ために再建のチャンスをいただくことができたからです。このことから、コンプライアンスを企業経営の基盤とするのはもちろんのこと、CSR経営を実践し、社会的責任を果たしていくことが、企業の存続の絶対的条件であると強く認識しています。

私たちは、企業再生のための絶対的な必要要件として、企業倫理への取組みをスタートさせました。雪印乳業の再建にあたり、第三者の意見もお聞きし、CSR経営の実践に取組んできましたが、まだ道半ばであると思っています。

梅津 その強い思いに賛同します。

日本における企業倫理は、過去15年間ほど、コンプライ

アンスを中心に進展してきましたが、それは第1ステージであったという印象があります。わたしは今後、企業倫理は第2ステージ、つまり組織的で包括的なステージに入っていくと考えています。

中野 雪印乳業の経営再建から現在に至る過程は、まさに、先生のおっしゃる15年間と符合するものであり、CSR経営を実践する私たちも新たなステージに踏み込まなくてはならないと思います。先生のイメージする第2ステージとは、どのようなものでしょうか？

● 企業倫理は「コンプライアンス型」から「価値共有型」へと移行する

梅津 「企業倫理・コンプライアンス経営の制度化」に関する方法論は、「コンプライアンス型」と「価値共有型」の2つのステージがあると考えています。

第1のステージは、「コンプライアンス型」と呼ばれる方法論であり、具体的な取組みとして、企業倫理基準の制定、担当役員の任命、担当部署の設置、ヘルプラインなどの相談窓口の開設、モニタリング、教育研修、社内の現場の推進組織の活性化などがあげられます。雪印メグミルクの過去の活動報告書を拝見すると、グループ行動規範や行動基準の制定、コーポレート・ガバナンスのための社外取締役の導入、企業倫理委員会の設置など、斬新で他の企業のお手本になる取組みを、いち早く実行されていることが分かります。こういったことから、御社は「コンプライアンス型」の企業倫理体制には、すでに対応できていると評価できます。

「コンプライアンス型」の取組みは、今後も必要であり、風化させてはならないものですが、法規制や法律家などの外圧に対応した基準適合であり、守りの姿勢になってしまう傾向もあります。これからの第2ステージでは、自ら選定した原則や価値観に従っていく「価値共有型」の企業倫理体制への進化に向かうことが必要になると考えています。

第2ステージの「価値共有型」企業倫理体制においては、会社の事業を推進する個々の現場、特に中間管理層が主導していくことが重要です。それぞれの現場で実践されている事業活動が、企業理念や使命の実現につながっていて、同時にそれが社会に貢献することなのであるという自覚が必要であると考えています。組織の中から染み出してくる倫理観や価値観をもとに、自発的・能動的な行為を実行することで、倫理を経営そのものの中に融合させることが、第2ステージとしての「価値共有型」の企業倫理のあり方であると言えます。

中野 当社は、不祥事をきっかけに「企業倫理・コンプライアンス経営の制度化」に向けた枠組み作りに着手したという経緯にあります。当初は型通りの活動からスタートしましたが、旧社から継続して10年以上取組む中で、会社の組織としての活動に溶け込んできており、梅津先生の言われる「コンプライアンス型」の制度や仕組みは、ほぼできていると思います。中でも、取締役会の諮問機関としての外部の有識者からなる企業倫理委員会の設置や、部会としての消費者部会、品質部会、表示部会の活動を通じて、常に第三者の目線で、ご意見をいただく仕組みが特徴的かもしれません。継続的に外部とコミュニケーションを取り、緊張感を持ち続けることが大切だと思っています。

しかしながら、一つの壁にあたっていると感じています。取組みのベース自体を新たなものへ、つまり先生のおっしゃる「価値共有型」へと進化させる必要があると考えています。

当社の場合、第一に共有化すべき価値は、企業理念とコーポレートスローガンです。当社の企業理念は、「消費者重視経営の実践」、「酪農生産への貢献」、「乳(ミルク)にこだわる」の3つの使命を果たし、社会に貢献する企業であり続けること、そして、コーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」です。こういった価値を、私たちの企業のベースとして、共有化することが重要だと考えています。

二つ目は、「食に携わるものとしての使命感と高い倫理観」の共有化です。当社は、毎年6月と1月に「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動～雪印の事件を風化させない～」を実施しています。このタイトルには、「食に携わるものとしての使命感と高い倫理観」が求められていることを強く認識し、組織として共有化したいという想いを込めています。



三つ目は、CSR活動の目的と意義の共有化です。CSRとは何か特別な事をするのではなく、身の丈にあった、本業に根ざしたCSR経営を実践することであると考えています。例えば同じ町内に魚屋さんがあり、肉屋さんがあり、それぞれのCSRのやり方があるはずです。大切なのは、それぞれの事業にあったCSRであり、ステークホルダーとの関係を意識し、日常業務に即したCSR活動をきちんとやっていくことが大切だと考えています。

一方で、企業の枠を越えた社会的な課題も多くあります。環境問題や食品ロスの削減、食育等、積極的に責任を果たしていく必要があります。また企業の枠を越えてサプライ・チェーン等、関係者、あるいは業界が協力して解決していくこともあります。社会の一員として、企業に求められている役割は非常に大きいということです。

現在は、この三つの価値を共有化したいというレベルですが、言葉で言うほど簡単ではないと思っています。そういう意味で、冒頭に申し上げましたように、当社のCSR経営の実践は、まだ道半ばであると認識しています。

梅津 日本におけるCSR元年は2003年と言われており、まだ10年程度に過ぎませんが、CSRと本業との関わりについては、経営者は試行錯誤されています。多くの企業が道半ばであると思うのですが、今、お話しされたCSR経営の実践に向けた課題を、どのようにクリアしていきますか？

● 多様な価値観こそが企業の活力を生む

中野 企業には、多様な価値観を持った人が集まっています。その多様な価値観こそが、企業の活力を生むと思っています。ですから「組織の中から染み出してくる倫理観や価値観をもとに、倫理を経営そのもののものに融合させることが、必要である」という考え方はそのとおりだと思いますし、私たちが目指しているCSR経営の方向も同じです。しかし、それを実現するのは大変困難であり、強い意思を持って努力を積み重ねなくては到達できないゴール、あるいは、ゴールのない取り組みであると思っています。それでも、継続していくことが大切であると認識しています。特に、当社の場合は、合併会社であることも、価値観の共有のハードルを高くしています。

一方で、CSR経営の実践には、企業の持続的成長が前提になることも事実です。企業の成長を通じて、一人ひとりの従業員が、日々の業務を通じて社会の発展に貢献していると実感できることが大切です。私は、この会社を「社員が誇りを持って、自らの可能性と未来をかけることができる強

い会社」にしたいと思っています。そういう会社を実現することが、私のCSR経営のゴールのイメージかもしれません。そして、そのときには、価値共有型のCSR経営ができていると考えています。ゴールに到達するまでは、本業の経営とともに、業務の一環として行なっているCSR活動の様々な取り組みをマンネリ化や形骸化しないように工夫しながら、常に見直し、継続していく努力が必要であると思っています。価値共有型という、第2のステージに進化していくための解答を見つけるのは難しいですし、長い道のりになると思いますが、企業によっても方法論は異なると思います。

● 本業に根ざした価値共有型CSR経営の実践に向けて

梅津 私は、企業が持続的に社会に貢献し、存在し続けるためには、本業にしっかりと向きあい育んでいくことが大切だと考えています。社会に貢献をするためには、お金も人的な資源も使っていくわけですが、その元手になるものは本業ですから、本業で収益を上げていく必要があります。

御社はミルクを本業とされていますが、赤ちゃんが初めて口にするのはお母さんのミルクですし、子どもたちは給食の牛乳を飲んで育ち、大人も乳製品を食べたり飲んだりします。人間はミルクのある世界に生まれ、ミルクとともに育っていくのかもしれませんが。ですから、「乳(ミルク)にこだわる」という理念は素晴らしいと思いますし、ぜひ実践してほしいと思います。御社のCSR経営は、まさにミルクという本業に根ざしたものであるということですね。

中野 そのとおりです。私たちは、ミルクに携わっていることを、非常にありがたいと思っています。ミルクは、子どもには成長を、成人の方には豊かな食生活とおいしさを提供し、





高齢者にはミルクの持っている様々な機能の利用など、人生のステージにあわせて多様な価値を提供することができます。そういった意味では、消費者の皆様に価値のある牛乳・乳製品をお届けしていくことが、社会に対する当社の使命であると思っています。コーポレートスローガンである「未来は、ミルクの中にある。」を当社グループ全体で共有し、ミルクの価値を深め、高め、そして拡げていくことが重要です。

ミルクの価値に関しては、当社のミルクサイエンス研究所を中心に研究を進めています。また最近では、外部の研究機関と連携して行なっている乳酸菌の研究でも成果を上げています。こういった研究成果を商品として具現化するための商品開発体制や、皆様に安定的に商品をお届けするための生産体制の整備にも力を入れております。

また当社は先程、合併会社であるということを申しましたが、同じ乳業会社であっても、それぞれの会社の様々な経歴を持った人がいるわけです。そういった状況において、ミルクは全員が共有できる価値であるということで、コーポレートスローガンを「未来は、ミルクの中にある。」としています。合併会社でありながらも、共有できる価値観を持っていることは強みだと思っています。

梅津 なるほど、成果が出てくるのが、とても楽しみです。

御社には、本業を支えている「酪農」とともに歩んできたという歴史もありますね。これも価値のあることだと思います。

中野 そうですね、当社のそれぞれの前身企業は、酪農家の皆さんの想いが結集してできた会社であるという歴史があります。今は乳業者と生産者は分業体制になっていますが、当社の歴史を辿っていくと、酪農と乳業が車の両輪のように密接な関係で発展してきましたので、そのDNAである酪農への貢献に対する想いは大事にしています。一方で、世の中は変化していますので、競争力も付ける必要があります。理念として持っているDNAにだけ注力して、競

争力を失ってしまっては存続が不可能になります。このDNAを大切にしながら、競争力を付けて、利益を上げて社会に貢献する、この2つを同時に実行していくことが重要です。当社にとって大きな特徴であるDNAが、先生のおっしゃる価値共有につながっていくのだと考えていますし、時代にあわせた事業を展開していくことで、社員が誇りを持って、この会社に関わる未来をかけてみよう、チャレンジしてみよう、という会社になっていきたいと考えています。

梅津 そのとおりですね。わたしは、価値共有を実現するには、変わらない価値のもとで、長期的な視点を持って人を育てることが重要だと思っています。

御社の場合、国内での合併だけでなく、海外にも進出されています。文化も言葉も違うところで仕事をしていくとき、雪印メグミルクとしての全世界共通の価値観を持っていることが大事です。時間軸でも、今のように目まぐるしく世の中が変わる時代はありません。現行の法制度にしても、5年後10年後、どうなるか誰も予測がつかないようになってきた現在、企業にとって普遍のもの、つまり「要石」となるものが必要です。世界を見渡すと、国によって法律が異なるので、コンプライアンスではコントロールできなくなってしまうという考え方もあります。国内のみならず多様な地域や文化を視野に入れて事業を展開していくとき、価値共有は一つの要石になります。そういった意味で「未来は、ミルクの中にある。」というコーポレートスローガンは、御社の要石であり、御社の未来をあらわしているのです。

御社の未来に向けた発展に期待しています。

日本経営倫理学会副会長 梅津 光弘氏

慶應義塾大学商学部准教授（企業倫理学、経営社会政策論担当）

著書：『企業評価＋企業倫理：CSRへのアプローチ』

（慶應義塾大学出版会、2006年）

『ビジネスの倫理学』（丸善、2002年）他多数

雪印メグミルクグループのCSR経営

企業理念を実現するために、企業活動において、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)を考慮し、社会とのより良い適合を図りながら、ともに持続的に発展していくための経営を推進しています。

雪印メグミルクグループ CSR方針

雪印メグミルクグループCSR方針

基本的な考え方

- グループ行動規範、自主行動基準に則り、企業理念の実現に向けて行動する。
- コンプライアンスを基本とし、商品・サービスの安全確保(品質保証)の徹底を最重要項目として取り組む。
- 企業倫理を徹底するとともに、「社外の目」を経営に反映し、社会から信頼される企業グループを目指す。

3つの側面に則した取り組みテーマ

経済側面

主なステークホルダー

お客様・消費者、
お取引先、株主

安全で安心していただける
商品・サービスの提供を
通して皆様の健康に
寄与する

- 1.「乳(ミルク)」の持つ可能性を追求し、技術の向上に努め、魅力のある商品を開発する。
- 2.グループ各社の持ち味を活かし、シナジー*を発揮することで安定した収益基盤を構築し、グループ企業価値を高める。

環境側面

主なステークホルダー

地球環境、地域社会

かけがえのない
地球環境の
保全に貢献する

- 1.一人ひとりが環境保全への意識を高め、環境保全活動に取り組む。
- 2.地球環境と資源を大切にするために、全社での環境保全活動を継続的に推進する。

社会側面

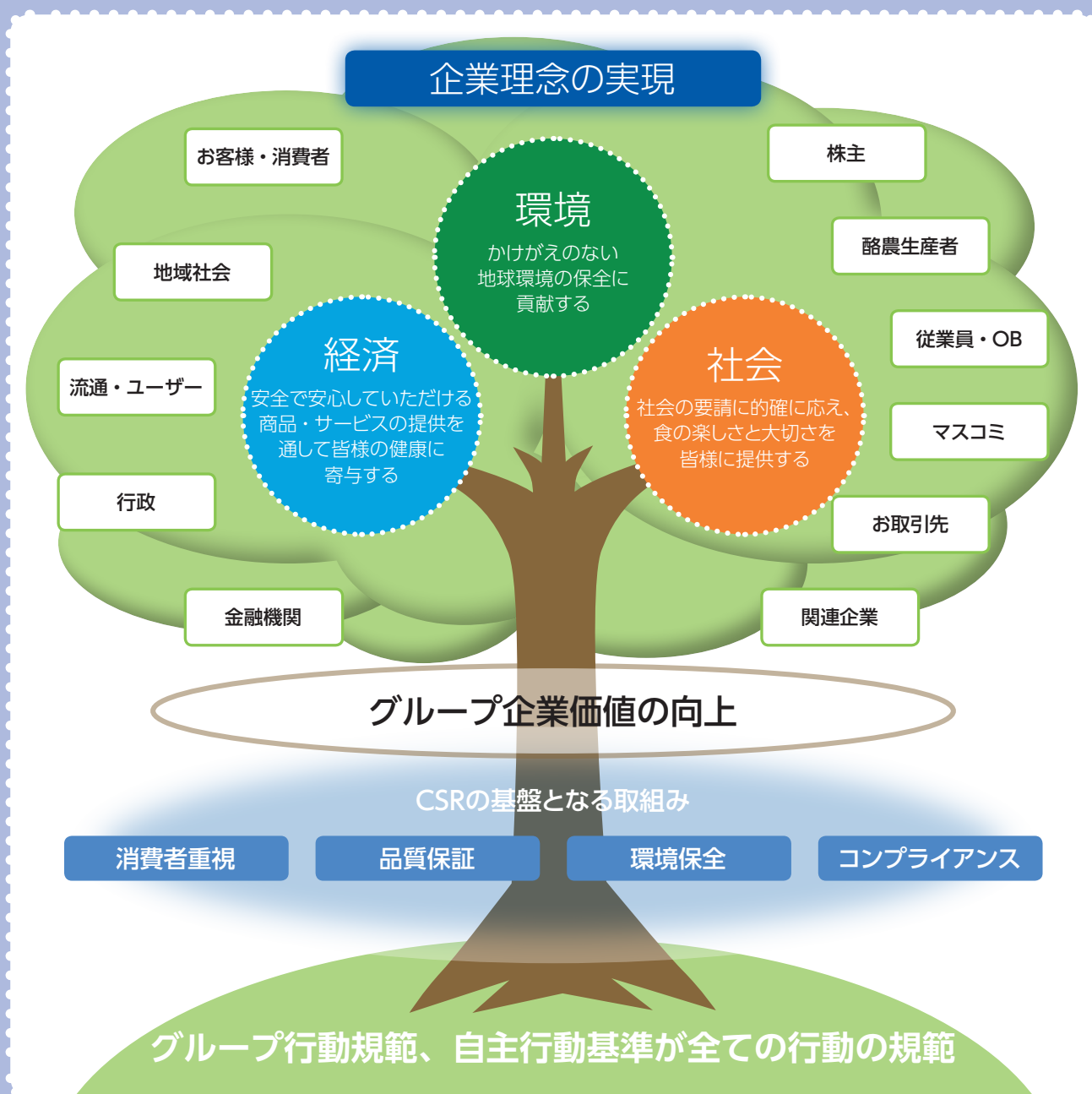
主なステークホルダー

お客様・消費者、
酪農生産者、従業員

社会の要請に的確に応え、
食の楽しさと大切さを
皆様に提供する

- 1.消費者基本法を根幹とした、消費者重視経営を実践するための取り組みを推進する。
- 2.酪農生産者の良きパートナーとして、酪農乳業界の持続的発展・国内酪農基盤の強化に貢献する。
- 3.一人ひとりが主体的に行動し、活力に溢れた、働きがいのある企業風土をつくる。

*シナジー：各部門の相乗効果として、 $1+1=2+\alpha$ の α を生み出すこと。



CSR社員アンケート

雪印メグミルクでは、従業員の意識・行動が、会社の目指す方向に向かっていくか、CSR活動の取組みにより従業員のCSRマインドが醸成されてきているかなどについて、毎年モニタリングを行なっています。アンケート結果は従業員にフィードバックするとともに、抽出した課題については、経営が対応の方向性を検討し、施策に反映しています。また、寄せられた自由意見全てを全常勤役員が読み込み、従業員の生の声に耳を傾けています。

2013年雪印メグミルクCSR社員アンケート結果（抜粋）

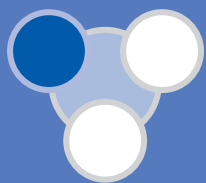
→ P40

CSRグループ活動

雪印メグミルクではCSRの確立を目的としてCSRグループ活動を実施しています。その活動内容は職場または事業所を一つのグループとし、全社を70グループに分け、グループごとにCSRリーダーを中心に全社統一テーマでの討議やCSR活動についての情報共有を行なっています。

また、「雪印メグミルク行動基準」を基本とし、コンプライアンスの徹底を目的とした活動も実施しています。





消費者重視経営の実践

迅速で正確な情報を提供していくことと共に、お客様・消費者の声に耳を傾け、消費者重視経営を実践していきます。また、独自の品質保証システムを確立し、安全で安心していただける商品をお届けしていきます。

ステークホルダーから
雪印メグミルクグループへのメッセージ

「よい商品」は信頼できる「よい会社」から

「よい会社とは、何でしょう」今、日本には数えきれないくらいの商品やサービスがあふれています。その中から私の暮らしにあったよい商品、サービスを選びたい、その時に大事なものは「信頼できる会社」かどうかです。雪印メグミルクグループは「未来は、ミルクの中にある。」というスローガンとともに、「消費者重視経営の実践」、「酪農生産への貢献」、「乳(ミルク)にこだわる」という3つの使命を掲げて社会に貢献する企業であり続けるとしています。一方、私たち消費者が向きあうのは、商品です。企業がどのように高邁な理想を掲げたとしても、企業が送り出す一つ一つの商品からそれを感じられなければよい会社という評価は得られないでしょう。商品の品質や安全性に加えて、情報提供のあり方や消費者の声への対応、万が一に備えての危機管理体制の整備、生産から消費、廃棄までのフードチェーンをつなぐ食育等への不断の取組みがあってはじめて、消費者の満足につながると思います。

日本の酪農が誕生して約100年、コップに注がれた真っ白なミルクは、その時々暮らしを反映しながら私たちの食卓に寄り添い、毎日の健康を支えてきました。過去の反省に立ち消費者重視経営を確実に実践することで、私たち消費者に「ミルクのある豊かな食生活」を届けてくれる雪印メグミルクグループのこれからに、大いに期待しています。



一般社団法人
全国消費者団体連絡会
事務局長

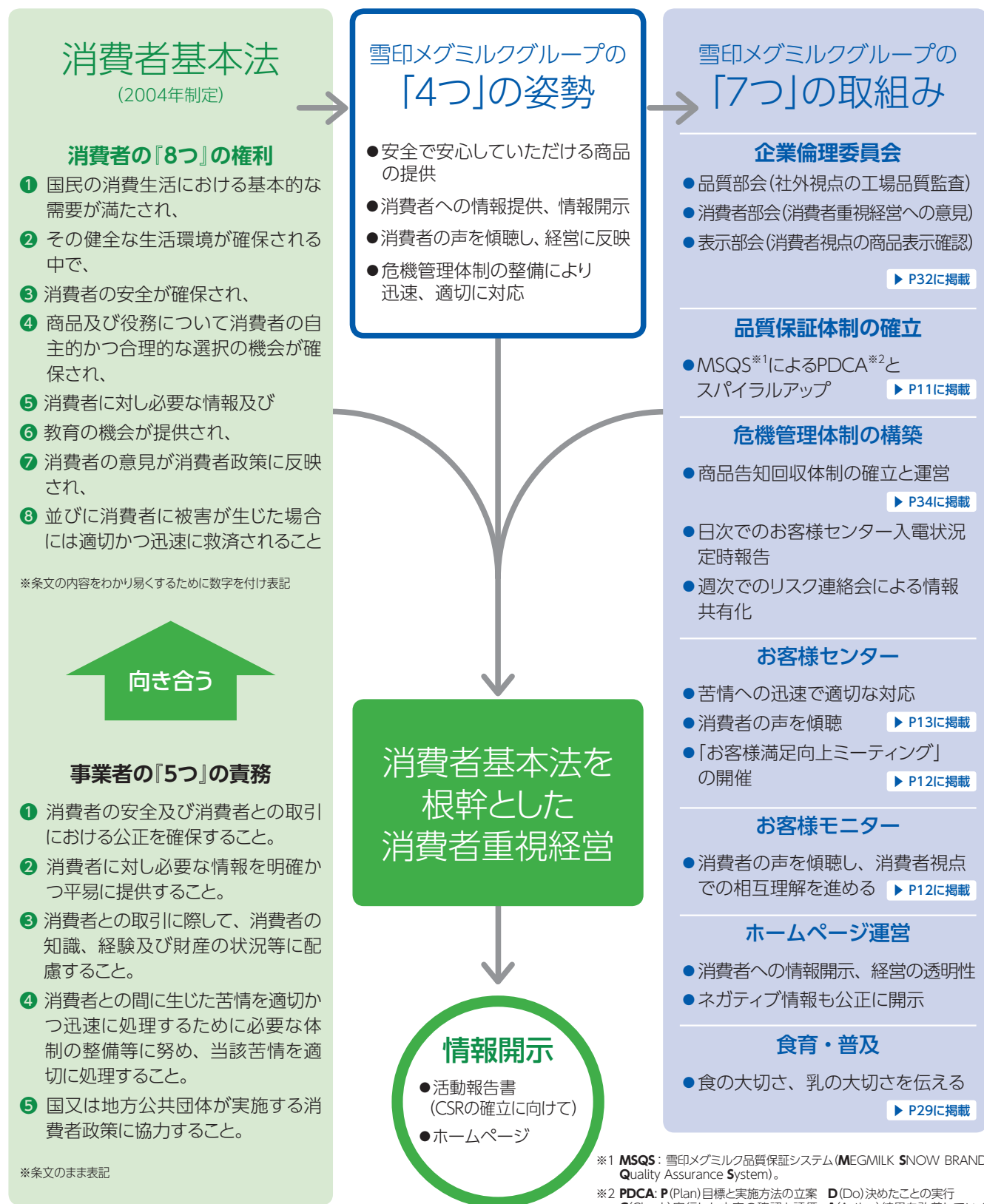
河野 康子 様

一般社団法人 全国消費者団体連絡会

略称：全国消団連。1956年に「消費者の権利の確立と暮らしを守り向上をめざすため全国の消費者組織の協力と連絡をはかり、消費者運動を促進すること」を目的として設立。消費生活に関連する諸問題や制度および消費者運動の進め方等について、調査研究、情報の交換、関係団体との交流、啓発事業などを行なう。

雪印メグミルクグループの「消費者重視経営」

私たち雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた消費者の「8つ」の権利に向き合い、「4つ」の基本姿勢に基づく「7つ」の取組みにより、事業者の責務を果たしていきます。



安全で安心していただける商品の提供

「3つの目」による品質チェック — 雪印メグミルク品質保証システム「MSQS」の仕組み —

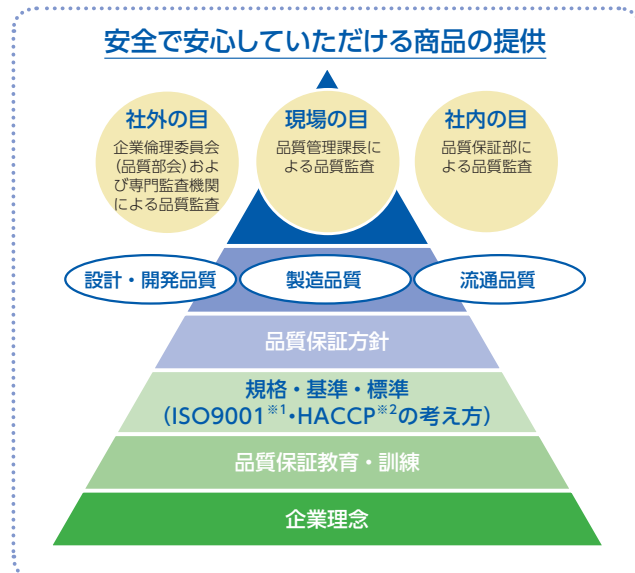
雪印メグミルクは、お客様・消費者の方々へ安全で安心していただける商品を提供していくことはもちろん、お客様・消費者の声を謙虚に聞き、反映することにより消費者重視の経営を実践し、信頼していただける品質の実現を目指します。そのために品質保証方針として、以下の4つの項目を定めています。

雪印メグミルク品質保証システム(MSQS)のもと、お届けする商品の設計・開発から原材料の調達・生産・物流・販売までの過程で品質を管理・保証しています。なお、品質保証システムが適正かつ有効に機能しているかを確認・検証するために、現場、社内、社外の3つの目でチェックを行なって、品質保証システムを改善し強化しています。

品質保証方針

- ① 消費者を重視した品質保証体制のもと、法令・社内基準を遵守し、安全で安心していただける商品を提供します。
- ② 適切な情報を提供し、消費者の信頼にお応えします。
- ③ 消費者の声を傾聴して、満足していただける品質を追求します。
- ④ 危機管理体制を整備し、迅速・適切に対応します。

雪印メグミルク品質保証システム「MSQS」の概念



※1 ISO9001：
組織内で品質保証に取組むための体制づくりに関する国際規格。

※2 HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)：
原料から製品にいたる一連の工程において発生する危害を調査・分析した結果から、特に重点的に管理する必要がある箇所を常時モニタリングすることで製品の安全性確保を図るもの

食品の放射性物質に係る対応について

雪印メグミルクは、お客様に安全で安心していただける商品をお届けするために、放射性物質に関して原材料、工場、製品および倉庫での保管に至る一連の過程で重要な管理すべきポイントを定め、定期的に検査・モニタリングして、国が定める基準値以下であることを確認しています。

具体的には、以下の取組みを行なっています。

酪農生産者の方々は乳牛の飼料を厳格に管理しており、また、酪農関係者や行政が協力して、原料乳の放射性物質について定期的な検査を実施しています。当社はこの検査結果を確認するとともに、厚生労働省が指定する17都県（東北・関東・甲信越地域・静岡県）に関して定期的に検査を行ない、基準値以下であることを確認しています。



※よくいただく質問、放射性物質について
<http://www.meg-snow.com/customer/faq/radioactivity.html>

モニタリング内容

- ① 原料乳について定期的に検査を行ない、基準値以下であることを確認しています。
- ② 主要原材料、および工場で使用している用水について、定期的に検査を行ない、基準値以下であることを確認しています。
- ③ 工場の製造環境（工場敷地、製造室、および資材・製品保管庫の空間線量率）を定期的に検査しています。
- ④ 当社工場、関係会社および委託先で製造された代表製品について、定期的に検査を行ない、基準値以下であることを確認しています。
- ⑤ 主要な製品倉庫での保管環境（敷地および倉庫内の空間線量率）を検査しています。

当社で管理するポイントを設定



私のチャレンジ
challenge

雪印メグミルク（株）
関西販売本部 関西コミュニケーションセンター
青柳・高尾・山本・唐住

お客様に「驚き」と「感動」と「おいしさ」をお届けし、
「雪印メグミルク」ブランドの価値向上に貢献します！



お客様の満足への取組み

お客様の声を社内に伝えています

－ お客様モニター制度 －

「お客様モニター制度」は、応募者の中から選考された関東、関西の消費者の皆様と、工場見学や牧場での酪農体験、グループディスカッションなどを行ない、その中で出されたご意見を企業活動に反映させていこうという取り組みです。お客様モニターでは、若手社員がモニター運営のサポートを行っており各会に参加し共に取組んでいます。

昨年は、消費者団体の方々と「食品ロスとリサイクル」と「食品表示」をテーマとした意見交換会や「商品開発の疑似体験」などを行ない好評を博しました。今後もお客様の声を社内に伝える活動を続けていきます。



活発な意見交換を実施しています。(関東)



モニターの体験談を熱心に聴いています。(関西)

お客様の声に耳を傾け商品・サービスに活かします

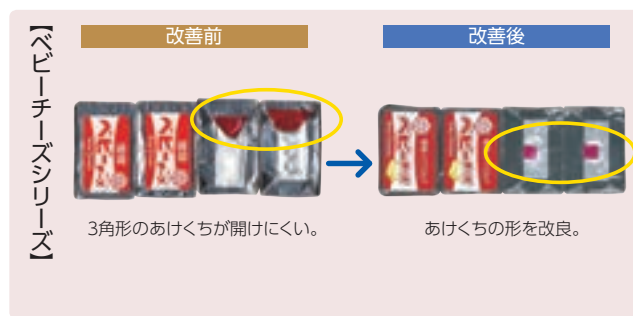
－ お客様満足向上ミーティング －

雪印メグミルクでは、お客様の声を活かした商品の改良・改善を目的として、「お客様満足向上ミーティング」を開催しています。

お客様から寄せられたご意見・ご要望の中で数の多かったものを中心に、「お客様満足向上ミーティング」にて関係部署間の協議を行ない、2013年度は改善を決定したものが21件となりました。その結果についてはホームページなどでお知らせしています。

また、「お客様満足向上ミーティング」の内容は「企業倫理委員会」、「取締役会」で報告しています。

お客様の声にお応えした例を以下に紹介します。



私のチャレンジ
challenge

(株) 雪印こどもの国牧場
飼育部 牧場部門
青木 翠

多くの人たちに牛について、酪農について知っていただき、興味を持ってもらいたいです。

お客様の満足への取組み

お客様のお申し出に迅速かつ適切にお応えします

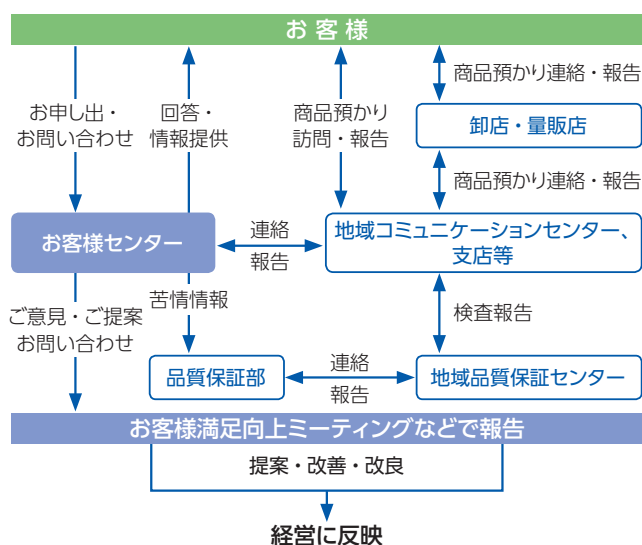
— お客様センター —

雪印メグミルクでは、お客様の声をお受けする「お客様センター」を開設し、電話・メール・手紙などでのお問い合わせに年中無休で「正確・迅速・丁寧」に対応していくことを第一に考えています。いただきました貴重なご意見は、担当部署へ伝達し、より良い商品の提供へ役立てています。商品検査が必要なお申し出をいただいたときは、社内の関係部署と連携して検査を実施し、お客様に迅速な報告を行なっています。



お客様からの声をいただいています。

お客様センターの対応の流れ



すべての商品のお問い合わせにお応えします。

「消費者重視経営の実践」を知っていただきました — くらしフェスタ東京に参加しました —

消費者と直接語り合う場として、東京都消費者月間実行委員会が中心となったくらしフェスタ東京2013に出展しました。今回は、雪印メグミルクグループの企業理念に掲げている「3つの使命」のうち「消費者重視経営の実践」をテーマに食育活動（出前授業、料理講習会、各種セミナーの開催）の概要や、地域・社会への取組み（スポーツ振興や文化振興への貢献）についてのパネル、「酪農と乳の歴史館」のパネルの掲示やリーフレットを配付して、CSR活動の一端をご紹介しました。



食育活動などを中心にご紹介しました。

私のチャレンジ
challenge

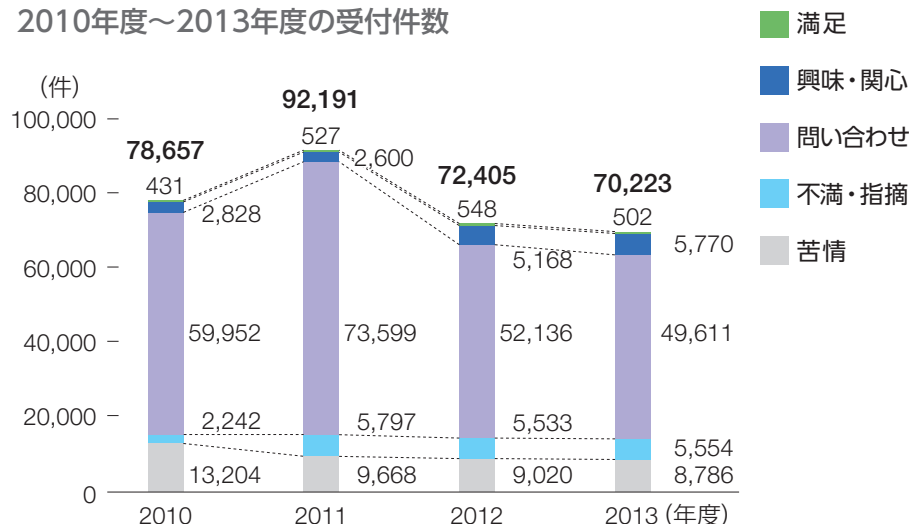
雪印メグミルク（株）
広報部 お客様センター
長岡 直美（右）

育児品部門の栄養士として、妊娠中や子育て中のお客様視点に立ったきめ細かな対応で、お客様満足度を向上させたい！



お客様センターの受付件数

2010年度～2013年度の受付件数



- 満足** : お褒め、お礼、激励など
- 興味・関心** : 宅配お申し込み、取扱店紹介、サンプルや資料のご請求など
- 問い合わせ** : 商品の原料、製法、保存方法、利用方法などへのご意見・ご質問
- 不満・指摘** : 商品・サービスに対するご不満点へのご意見・ご要望
- 苦情** : 商品引取り、訪問、検査などの対応が必要な苦情

2013年度の主な特徴

1. 受付件数

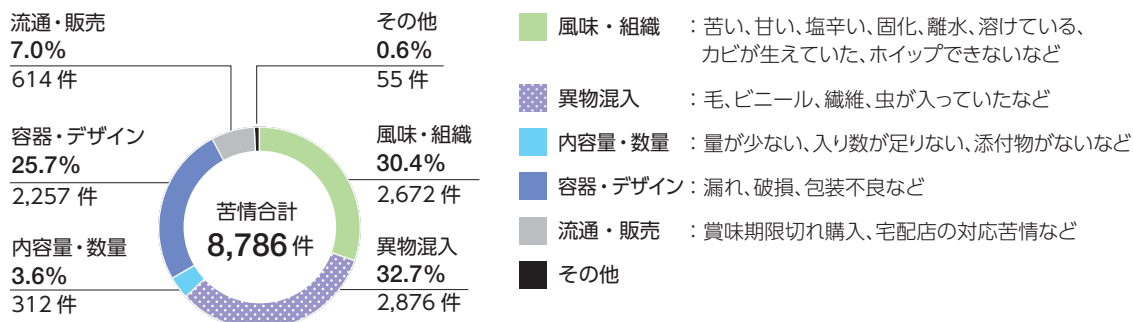
2013年度の受付件数は、前年度と比較して、全体で約3% (2,182件) の減少となりました。

2. 入電内容

ヨーグルトの機能性に関するお問い合わせや、取扱店紹介のお声、また「ナチュレ恵シリーズ」で実施したプレゼントキャンペーン応募用紙のご請求など、ヨーグルトに関する関心の高まりが伺えました。

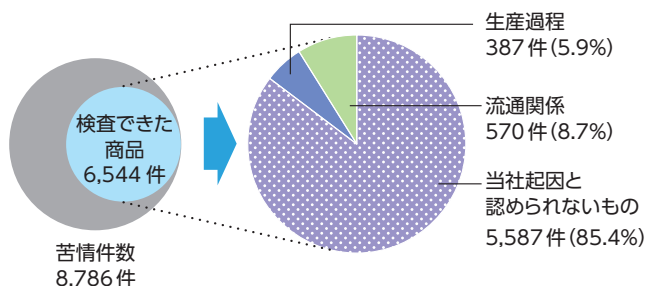
2011年度に増加した放射能関連のお問い合わせ (検査体制、原料産地など) は、2012年度に引き続いて減少傾向を示しました。

2013年度の受付件数の中での「苦情」の内訳



お客様苦情のうち、ご協力をいただいて検査ができた商品の起因別割合

2013年度の苦情件数8,786件のうち、商品の提供を得られた6,544件について検査を実施しました。その検査結果から、苦情起因の推定を行ない、商品の設計や製造工程の改善に役立てています。

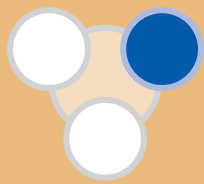


私のチャレンジ
challenge

雪印メグミルク (株)
豊橋工場 製造一課 第一充填包装クリーム充填
松本 深

高い感覚で見極めて、異常品の発生を未然に防げるオペレーターを目指します。

私たちの3つの使命



酪農生産への貢献

乳(ミルク)からもたらされる力を「食の大切さと尊さ」につなげ、笑顔あふれる食生活を応援していきます。
また乳(ミルク)を通じたコミュニケーションを大切にすることで、社会からの要請にも的確に応えていきます。

ステークホルダーから 雪印メグミルクグループへのメッセージ

これからも長き良きパートナーで

貴社との繋がりは、我が管内が酪農振興地域の指定(昭和40年当初)を受けて以来です。私ども東海酪農業協同組合連合会が発足した平成12年に貴社の事件が発覚し、弊会の最初にして最大の業務は、貴社への生乳需給調整等を通じた支援体制の構築でありました。雪印からメグミルク、そして雪印メグミルクと今日まで連携・協調を図りながら、良きパートナーとして繋がりを持ってきました。

私は酪農経営の基本の一つに牛群の改良が不可欠であり、以って生産性の向上を図り経営の安定に資する旨を理念に取り組んできています。貴社の「酪農生産への貢献」での現場における適切な生産者への助言は酪農経営の安定を促し、もう一つの理念である「乳(ミルク)にこだわる」で牛乳・乳製品を媒体として生産者の心を国民・消費者に橋渡しする取組みが生産者に経営継続への意欲を持たせる結果となって、我々は更なる生産性の向上を目指し日夜取り組んでいます。

TPP等貿易交渉の進展は風聞するに胸突き八丁とも八合目までとも言われています。然し、我国の食料自給が軽視されボーダーレスに突入する方向は、ただでさえ生産基盤が脆弱化している我国酪農を更に弱体化させかねません。難しい問題ではありますが、食料を自給する事が我々に与えられた責務と認識し、共々努力する事が大事だと思います。

限られた乳資源を如何に有効且つ有機的に利活用するかが、酪農・乳業の将来展望に繋がります。国産生乳の優位性(安全・安心そして信頼)を二つの事件から得た教訓として、国民・消費者に牛乳・乳製品を提供していく事が貴社に課せられた使命と存じ、共々信頼に値する生産活動を今後とも推進していく覚悟をメッセージとして届けます。



東海酪農業協同組合連合会
代表理事会長

杉浦 弘泰 様

東海酪農業協同組合連合会

略称：東海酪連。各県毎に組織されていた指定生乳生産者団体は、「新たな酪農・乳業対策大綱」(平成11年3月策定)に基づき、より合理的な生乳取引・流通を図るため広域化されることとなり、東海酪連は平成12年10月に東海地域4県(愛知県・長野県・岐阜県・三重県)の広域指定生乳生産者団体として設立。管内の酪農生産者から生産される年間約40万トンの生乳を受託、管内外の乳業に販売する。

雪印メグミルクグループの酪農生産への貢献

日本酪農青年研究連盟

1948年、北海道の若き酪農家達から始まった酪農実践研究団体で全国約2,000名の会員で活動を展開。当社グループは事務局として発足当初から支援しています。

毎年、全国から会員が集う日本酪農研究会は、昨年11月の仙台大会で第65回を迎えました。

メインの酪農経営発表では代表6名が地域特性を活かした低コスト生乳生産や飼料自給率向上等の取り組み成果を披露、若手後継者の夢や想いを語った意見・事例発表5名も併せ、酪農経営の多様性・可能性を印象付けました。

また、講演会では、東北の震災復興を象徴する地元農業高校や復興モデル牧場のご苦労や熱い想いに、酪農情勢が厳しい中、参加者一同が明日への活力を見出した充実した大会となりました。



厳しい経営環境に打ち勝つ取り組み成果を披露。

酪農総合研究所シンポジウム

37年目を迎えたシンポジウムは、時機を得たテーマ・内容から毎年多くの参集をいただいています。

2013年度は、飼料自給率向上がわが国の酪農生産基盤の今後を左右する重要課題となっていることから、「国産飼料を最大限に活かした酪農の再構築-II-地域の取り組み事例と課題」とし、昨年からの継続テーマで開催しました。

酪農総合研究所と酪農生産者・団体からの北海道・府県の先進事例紹介と意見交換を通じ、課題解決に向けた対応策の酪農現場への波及に貢献しています。



飼料自給率向上に向け、会場全体で意見交換。

酪農諮問委員会

2009年雪印メグミルク発足時から、酪農に関するご意見を広くお聞きする場である酪農諮問委員会を設置し、年2回開催しています。

2013年度（第6・7回）は、「国際化の中でわが国の酪農乳業の向かうべき方向性について」をテーマに、高い見識と豊富な経験を有する酪農生産者・有識者委員からご意見・ご助言をいただきました。

委員一覧

P40



酪農生産者・有識者の声を経営に活かします。



私のチャレンジ
challenge

雪印種苗（株）
技術推進室
岡本 武史

「笑顔は、ミルクの中にある。」を合言葉として、酪農家さんが笑顔になれるような提案をしていきます！



乳(ミルク)にこだわる

「乳(ミルク)にこだわる」企業として、長年にわたり積み重ねた技術によりさまざまなミルクの価値を提供しています。これからもさらに技術を極めることで秘められた未知なる力を引き出していきます。

ステークホルダーから 雪印メグミルクグループへのメッセージ

貴社は、経営理念の中で、その使命の1つに「乳(ミルク)にこだわる」を、コーポレートスローガンに「未来は、ミルクの中にある。」を掲げておられます。

そのミルクから作られる、牛乳・乳飲料、チーズ、バター、ヨーグルトなどの乳・乳製品は人々の生活には欠かせない食品です。

最近、これらの製品に含まれる成分や乳酸菌が健康増進に役立つことが少しずつ明らかにされ、益々、需要が高まっています。その中でもヨーグルトの乳酸菌については、最近の研究により、インフルエンザ予防や免疫力強化、そして肥満症の予防・改善に有効であるという研究結果が学会や論文で発表され、人々の健康維持に大きく貢献することが明らかとなってきました。

このように、科学的に、商品に含まれる成分や乳酸菌の作用・効果进行评估し、そのメカニズムを解明することが、商品の必要性・信頼性を高めることに繋がっていくと考えています。

昔より提唱されている「医食同源」という言葉のとおり、人々は食を通じて健康を維持し、QOL (Quality of Life: 生活の質) を向上させ、高齢になっても寝たきりなどにはならず、介護の必要がない若々しい身体のまま健康寿命を延ばすことが大切です。特に、今後、日本は高齢化社会を迎えるため、貴社には、研究活動で得られた成果を健康維持に役立つ商品開発に活かすことで、多くの人々に愛される企業として益々、活躍し続けていただきたいと思います。



北海道大学遺伝子病制御研究所
プロバイオティクス・免疫学・免疫学研究部門
特任教授

宮崎 忠昭 様

北海道大学遺伝子病制御研究所 プロバイオティクス・免疫学・免疫学研究部門

プロバイオティクス・免疫学・免疫学研究部門は、北海道大学遺伝子病制御研究所内に当社寄附講座として2011年9月に開設された。

本寄附講座では食品の有する健康機能性を明らかにする観点から、プロバイオティクス菌に着目し、これらがもたらす疾病予防機能の評価および作用機序の解明を目指した研究を行なっている。

これまでに、乳酸菌が腸管免疫系を制御し、感染症、花粉症、アレルギー、炎症性腸疾患、癌、生活習慣病や肥満の予防に効果があることを明らかにしている。

※プロバイオティクス: 摂取することにより、摂取した動物(ヒトなど)に有益な効果をもたらす生きた微生物のこと。

※免疫学: 免疫学。高等動物における生物学的自己性を確立・保全する生体反応に関する学問領域。

乳(ミルク)の価値の提供

乳酸菌の機能に関する研究

乳酸菌の健康機能を科学し、商品の差別化を図るとともに、乳酸菌研究を通して社会に貢献する研究を行なっています。

【ガセリ菌SP株】

ガセリ菌SP株の研究は、従来より注力して取り組んでいる「内臓脂肪蓄積抑制による抗メタボリックシンドローム効果」に加えて、「腸の健康と免疫力の維持向上」の観点から研究を進めており、2013年度には、以下のような成果が得られています。

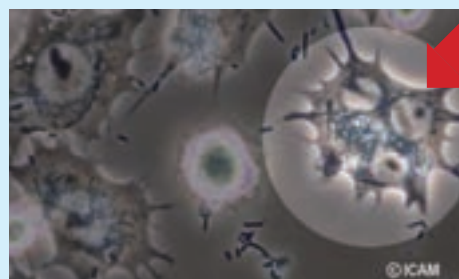
- 抗インフルエンザ効果を見出し、その作用メカニズムを明らかにしました。
- 免疫力向上の指標であるIgAの産生を促進する効果を見出し、その作用メカニズムを明らかにしました。
- モデル動物に対してガセリ菌SP株を投与したところ、寿命を延長する効果があることを見出し、その作用メカニズムに関する新たな知見を得ました。
- 歯周病に対する抗炎症効果を有する可能性を新たに見出しました。
- 体内の抗菌ペプチド（ β ディフェンシン）の産生を促進する可能性を新たに見出しました。
- 免疫細胞がガセリ菌SP株を取り込んで活性化し、増殖していく様子の映像化に成功いたしました。（下写真参照）

ガセリ菌SP株投与により免疫細胞が活性化された！



免疫細胞（マクロファージ）がガセリ菌SP株を取り込んだ状態。

活性化



触手が伸びて、免疫細胞が活性化した状態。

免疫細胞が活性化することで、全身の免疫力強化が期待できます。

【ヘルペティカス菌】

ヘルペティカス菌の研究は、芳醇ゴードに使用している当社独自の乳酸菌である「ヘルペティカス菌SBT2171株」について、免疫に与える影響に着目した機能探索を実施しており、以下のような成果が得られています。

- 免疫細胞の過剰な活性化を制御し、炎症を抑制する可能性を新たに見出しました。
- I型糖尿病の発症原因である自己免疫応答を抑制する可能性を新たに見出しました。



私のチャレンジ
challenge

雪印メグミルク（株）
ミルクサイエンス研究所 技術開発研究室
吉岡 孝一郎

仕事でも家庭でも信頼される人になれるように頑張ります！

乳(ミルク)の価値の提供

私たち雪印メグミルクグループは、コーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」に基づき、ミルクの機能を中心として、「健康機能」と「おいしさ」の追求を軸とした研究を行なっています。

健康機能に関する研究に立脚した「乳」成分

MBP®

- MBP®は牛乳や母乳に含まれる微量タンパク質であり、骨をつくる骨芽細胞を増やし、骨を壊す破骨細胞の働きを調整する機能などが明らかとなっています。

- MBP®の新たな機能として、MBP®が皮膚の真皮※構成成分であるコラーゲンやヒアルロン酸、エラスチンの生成を促進する可能性を見出しました。

※真皮：
皮膚の表皮の下にある繊維性結合組織層のこと。

ホエイペプチドHW-3

- ホエイペプチドHW-3は、必須アミノ酸を豊富に含む乳由来のホエイ（乳清）タンパク質を、当社独自の技術で調整した消化吸収性に優れた素材であり、骨格筋を形成するタンパク質の合成促進機能などが明らかとなっています。

- ホエイペプチドHW-3の新たな機能として、肝臓での脂質代謝を改善する可能性、および紫外線による肌のダメージを抑制する可能性を見出しました。

ミルクセラミドMC-5

- ミルクセラミドMC-5は、セラミド骨格を持つ「スフィンゴミエリン」を濃縮した、ミルクを原料とした素材であり、皮膚の保水性を高める効果などが明らかとなっています。

- ミルクセラミドMC-5の新たな機能として、抗酸化性に関する利用の可能性を見出しました。

「おいしさ」に関する研究

① 平成25年度北海道地方発明表彰において 日本弁理士会会長奨励賞を受賞

「重ねドルチェ」シリーズの開発において培った当社独自の特許製造技術「風味・食感の良好な多層デザート(特許第4022558号)」が日本弁理士会会長奨励賞を受賞しました。



② 日本食品科学工学会で論文賞を受賞

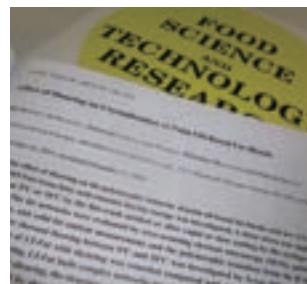
マーガリン類の製造工程における冷却とその後の混練工程における微細構造の変化を解析して、滑らかさや口どけなどの品質向上を図る当社独自の技術が評価されました。

[Effect of shearing on crystallization of palm oil-based fat blends] (Food Science and Technology Research, Vol.18, 375-382, 2012)

(パーム油をベースとした混合油脂の結晶性に与えるせん断の影響)



論文賞授与式



掲載論文

私のチャレンジ challenge

チェスコ(株)
関東総括支店 小売グループ
浮田 一晃

世界のチーズの魅力とおいしさを、お客様に伝えます。
プライベートでは東京マラソン出場&完走にチャレンジ!



乳（ミルク）の価値の提供

先天性代謝異常症用特殊ミルクの開発と供給について

生まれながらにしてアミノ酸などの代謝が正常でないために、母乳や育児用粉ミルクだけでは健全な成長が望めないお子様がいらっしゃいます。雪印メグミルクでは雪印乳業時代よりこうしたお子様方の健やかな発育を願い、特殊ミルクを製造、供給しています。

全ての赤ちゃんは生まれて4～5日後に血液検査（スクリーニング検査）を受けます。代謝異常が発見されると、医師の指示に従ってそれぞれの病態に応じた特殊ミルクが与えられます。母乳や育児用粉乳と特殊ミルクを組み合わせた食事療法などによって症状が出ることを防ぐことができます。患者数としてはかなり少ない（参考：フェニルケトン尿症では全国で500人前後）のですが、特殊ミルクは代謝異常のあるお子様はもちろん、そのご家族、治療にあたられている医療関係者にとっては、1日たりとも欠かすことのできないミルクなのです。

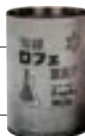
特殊ミルクの始まりは1961年に遡ります。フェニルケトン尿症研究会が発足し、特殊ミルク開発がスタートしました。

日本において特殊ミルクが開発され、医薬品として承認されたのが1963年、雪印乳業（当時）の雪印ロフェミルクでした。フェニルケトン尿症の患者様に対応したミルクの国産化が強く求められ、医師の先生方の多大なご支援、ご協力をいただき開発に至ったものです。

以来、雪印メグミルクでは医師の先生方にご協力いただきながら、特殊ミルクを開発、生産してきました。現在、医薬品の特殊ミルクとして、フェニルアラニン除去ミルク配合散「雪印」、ロイシン・インロイシン・バリン除去ミルク配合散「雪印」の2品目と特殊ミルク安全開発委員会にて登録されている登録特殊ミルク7品目を生産、供給しています。

雪印メグミルクは国内で最初に特殊ミルクを開発した企業として、また当社が果たしていくべき社会的責任として、今後も特殊ミルクの安定供給と品質確保に取組み、患者様に供給していきます。（現在、生産・供給している医薬品2品目、登録品7品目は当社のみが供給しています。）

特殊ミルク共同安全開発事業と雪印メグミルクの取組み

1961年	「フェニルケトン尿症研究会」が発足し雪印乳業（当時）と味の素が治療用特殊ミルクの共同開発に着手	
1963年	フェニルケトン尿症用ミルク「雪印ロフェミルク」が医薬品として承認を受け、1965年に薬価収載される	
1977年	先天性代謝異常症のマス・スクリーニングが開始される	
1980年	特殊ミルク共同安全開発事業が発足（北川 照男 安全開発委員長）厚生省の助成事業として登録特殊ミルクの供給体制が整う	
1981年	雪印6品目が薬価収載される	
2000年	「雪印ベパチドロフェ」が薬価収載される	
2002年	「フェニルアラニン除去ミルク配合散「雪印」 および「ロイシン・インロイシン・バリン除去ミルク配合散「雪印」」が薬価収載される（新配合に切替）	
2013年	新医薬品工場が稼働	

製造・供給している特殊ミルク品目

品目	対象疾患	
医薬品 (2品目)	Phe 除去ミルク配合散「雪印」	フェニルケトン尿症
	Leu,Ile,Val 除去ミルク配合散「雪印」	メープルシロップ尿症
登録 特殊ミルク (7品目)	Phe 無添加総合アミノ酸粉末	フェニルケトン尿症
	Met 除去粉乳	ホモシスチン尿症
	Phe,Tyr 除去粉乳	高チロシン血症
	蛋白除去粉乳	高アンモニア血症
	Ile,Val,Met,Thr 除去粉乳	メチルマロン酸血症
	Ile,Val,Met,Thr,Gly 除去粉乳	メチルマロン酸血症 プロピオン酸血症
	Lys,Trp 除去粉乳	グルタル酸血症1型

※登録特殊ミルク：
社会福祉法人 恩賜財団 母子愛育会 総合母子保健センター特殊ミルク事務局の指示により製造、供給



私のチャレンジ
challenge

雪印メグミルク（株）
中部統括支店 乳食品一課
三輪 秀知

私のチャレンジは資格取得と実用です。
仕事ではシニアチーズアドバイザー、趣味では神社マイスターを！

地球環境保全への取組み

雪印メグミルクグループは、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした事業活動を行なう上で、大切な地球環境を次世代に引き継ぐために、グループ全体で環境保全活動を推進しています。

ステークホルダーから
雪印メグミルクグループへのメッセージ

雪印メグミルクグループのEMSの継続的改善に期待します。

雪印メグミルクグループは、日本全国に製造事業所を保有し、それぞれの工場でその地域に合った環境活動を行なわれていますが、ISO14001^{※1(P22)} 環境マネジメントシステム(EMS)^{※2(P22)} 導入に際しても、より有効なマネジメントシステムのための取組みを着実に実施されています。その取組みは、できるだけ現場に近い目線で、地域に根付いた活動を行なうように意識されており、生産者との協力や、エネルギー、水使用の削減などの具体的な取組みを通して、確実に効果を上げています。また、経営統合により今まで管理されていた複数のEMSを統合運用できるよう、管理側および運用の現場でも様々な対応が実施されており、そちらも効果を上げています。グループ経営全体として積極的なEMSの改善に取り組んでおり、中でも、現場において内部環境監査や外部環境審査における指摘事項を真摯に受け止め積極的に日常の業務の中で改善活動が実現できていることには、組織全体のEMSに対する意識の高さがよく表れているかと思います。

乳業業界は、生産者である酪農農家を含むサプライチェーンの視点においても、環境に関する様々な影響を受けやすい業界かと思います。食の安全に対する社会の関心も高まる中、雪印メグミルクグループのEMSがさらなる継続的改善を進められることを期待しております。



BSIグループジャパン株式会社
代表取締役社長

竹尾 直章 様

BSIグループジャパン株式会社

BSI (British Standards Institution, 英国規格協会) は、1901年に英国で工学標準化委員会として設立された、ロイヤル・チャーター(英国王室憲章)を授与されている世界最古の国家規格協会であり、150カ国以上で事業を展開している。BSIグループジャパン株式会社はそのグループの一員であり、日本国内におけるISO14001環境マネジメントシステムの認証審査機関である。

環境マネジメントの推進

雪印メグミルクは、事業活動に伴う環境への影響だけではなく、社会に与える影響も考慮しながら、環境と経営が調和した環境保全活動への取り組みを積極的に行なっています。

雪印メグミルク環境方針

私たちは、「雪印メグミルク行動基準」に則り、環境マネジメントシステムを構築し、環境負荷低減を図ります。そして、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした事業活動と地球環境の共生に努めます。

1. 法令の遵守

環境法令・条例等を遵守し、法改正等に迅速に対応します。

2. 環境への配慮

省エネルギーと廃棄物の適正管理を実施し、継続的に改善します。

3. 環境意識の向上

一人ひとりが環境保全に対する自覚を持つとともに、環境教育を積極的に推進します。

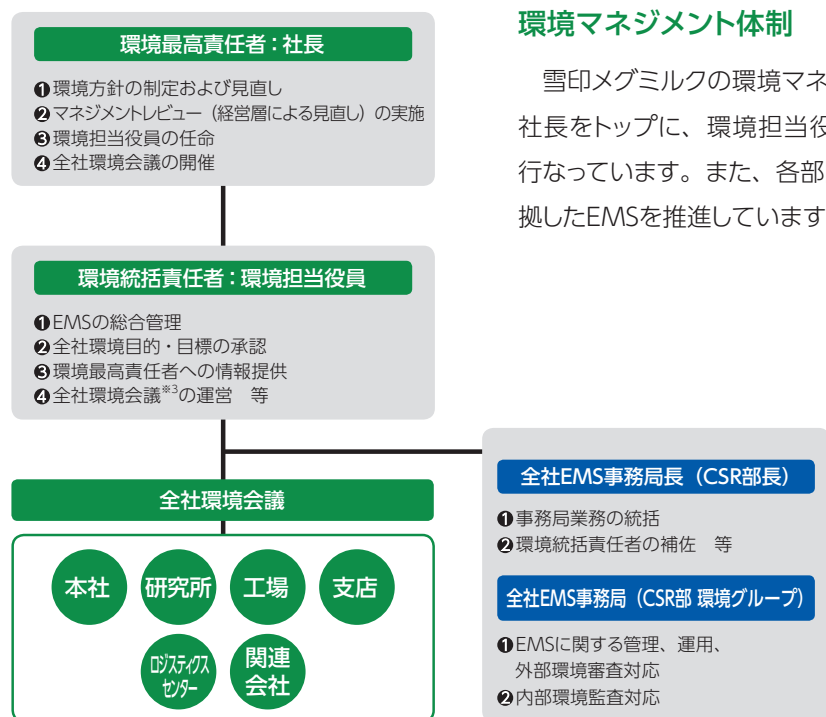
4. 環境情報の開示

環境情報を積極的に開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

環境方針

雪印メグミルクは、「法令の遵守」、「環境への配慮」、「環境意識の向上」、「環境情報の開示」の4項目を環境保全活動の基盤として、環境負荷低減の取り組みや環境意識の向上を推進し、環境保全を通じた社会的責任を果たしていきます。

環境マネジメント体制図



環境マネジメント体制

雪印メグミルクの環境マネジメントは、環境保全活動の最高責任者である社長をトップに、環境担当役員が環境統括責任者としてEMSの総合管理を行なっています。また、各部門には環境管理責任者を置き、ISO14001に準拠したEMSを推進しています。



全社環境会議

※1 ISO14001：組織内で環境保全に取り組むための国際規格。

※2 環境マネジメントシステム（EMS）：Environmental Management Systemの略。

※3 全社環境会議：全社環境目標の協議と進捗管理を行なうとともに必要な措置の決定を行ない、EMSが適切で効果的に機能していることを確認する会議。

私のチャレンジ
challenge

雪印メグミルク（株）
ロジスティクス部 阿見総合物流センター
根津 陽祐

運送会社、倉庫会社、そして雪印メグミルク、三社が協力して利益を生み出す架け橋になりたい。

環境マネジメントの推進

ISO14001 認証の継続

雪印メグミルクは、2011年度に日本ミルクコミュニティと雪印乳業の合併に伴い、新しい環境マネジメントシステムを運用し、2社のISO14001認証を統合しました。2013年度は、合併後初めて更新審査を受審しました。組織において、確実に管理および改善活動を行なっていることが審査機関による外部環境審査により評価され、10月24日付けで再認証が認められました。



掲示用 認証登録証

環境法令の遵守

雪印メグミルクは、環境方針に示しているとおり、環境関連法規の遵守のため、グループ会社を含めた全ての事業所に関わる環境法規および地域条例を抽出・特定し、これに準拠した取組みを実践しています。また、工場や研究所などにおいて想定される緊急事態についての抽出と評価も行なっています。

2014年度

事業活動と環境法規関連表

環境法規	本 社										子 会 社									
	営業部	生産部	技術部	品質部	環境部	総務部	経理部	人事部	施設部	安全部	営業部	生産部	技術部	品質部	環境部	総務部	経理部	人事部	施設部	安全部
環境基本法																				
環境基本法施行令																				
環境影響評価法																				
環境影響評価法施行令																				
大気汚染防止法																				
大気汚染防止法施行令																				
水質汚濁防止法																				
水質汚濁防止法施行令																				
土壌汚染対策法																				
騒音規制法																				
振動規制法																				
労働安全衛生法																				
労働基準法																				
労働契約法																				
労働争議調停法																				
労働組合法																				
労働関係調整法																				
労働基準法施行令																				
労働契約法施行令																				
労働争議調停法施行令																				
労働組法施行令																				
労働関係調整法施行令																				
労働安全衛生法施行令																				
労働基準法施行令																				
労働契約法施行令																				
労働争議調停法施行令																				
労働組法施行令																				
労働関係調整法施行令																				

消。

消。

消は不要。

右法規との関連を示す。

各部署に関わる環境関連法規の特定様式

環境監査

環境監査には、審査機関による外部環境審査と社内で行なう内部環境監査があり、EMSの運用状況等を総合的に確認しています。2013年度の内部環境監査は昨年度に引き続き、社内資格を有する監査員がチームを組み、全ての部署に対して実施しました。環境監査で発見された指摘事項や課題を改善することで、EMSを継続的に運用しています。



磯分内工場 内部環境監査



海老名工場 外部環境審査

環境教育

雪印メグミルクは、各部署で必要な教育を個別に実施するとともに、イントラネットなどを活用した環境教育を全社で実施しています。また、内部環境監査ができるスキルを持ち、各部署での活動のキーマンとなる人材の育成を目的とした内部環境監査員養成研修を実施しています。



内部環境監査員養成研修（札幌）

私のチャレンジ
challenge

雪印メグミルク（株）
野田工場 製造二課 LL充填係
堀越 哲平

新しい仕事や難しい仕事にもどんどんチャレンジし、同僚に良い影響を与えられる存在になりたい！



地球温暖化防止と循環型社会構築への取組み

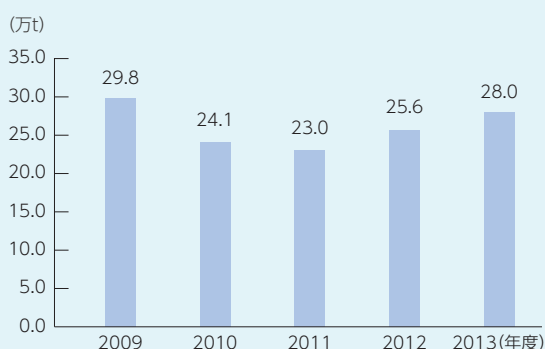
雪印メグミルクは、環境保全をCSRの基盤となる取組みとして捉え、地球温暖化の原因であるCO₂排出量の削減や循環型社会構築に向けた廃棄物の発生抑制やリサイクルの取組みを推進しています。

CO₂排出量とエネルギー使用量の推移

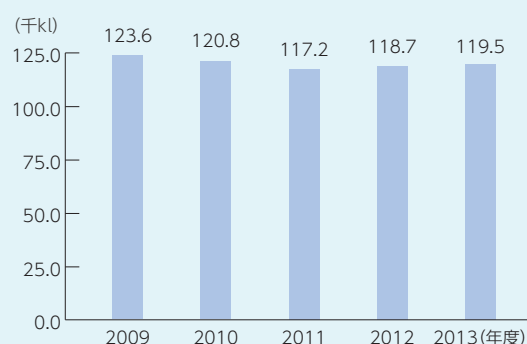
雪印メグミルクでは、工場の生産体制の整備や重油からガスへの置換などの取組みを積極的に推進し、支店・研究所においては、空調温度の適正管理やノー残業デーなどの省エネルギー活動に積極的に取り組んでいます。

2013年度もエネルギー使用の効率化を推進しましたが、工場の統廃合にともなう移行期間であるため、CO₂排出量・エネルギー使用量ともに前年度より増加しました。2014年度は、さらに省エネルギー活動の推進を行なっていきます。

CO₂排出量



エネルギー使用量 (原油換算)

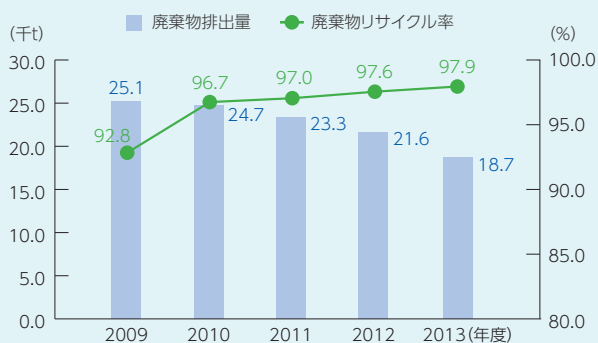


廃棄物・食品廃棄物の排出量とリサイクル率の推移

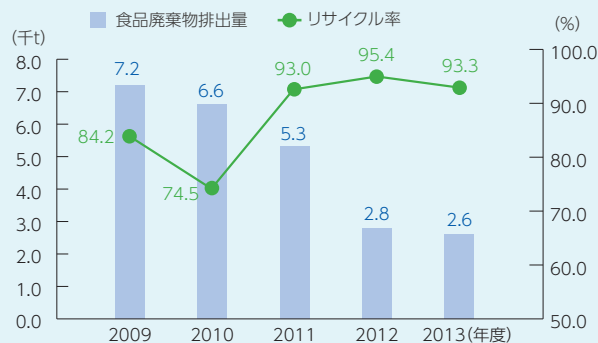
雪印メグミルクの2013年度の廃棄物排出量は、工場・物流部門の食品廃棄物、汚泥削減などの取組みによって、前年度より減少しました。また、廃棄物リサイクル率も向上しました。

食品廃棄物については、前年度より排出量は減少し、リサイクル率は依然高いレベルで推移しています。今後も食品メーカーとしての責務である廃棄物、食品廃棄物の発生抑制、およびリサイクルに継続して努めていきます。

廃棄物排出量と廃棄物リサイクル率



食品廃棄物排出量とリサイクル率



※工場、支店、研究所計

私のチャレンジ
challenge

雪印メグミルク (株)
大樹工場 製造三課 カマンベール製造
河嶋 雄太 (左)

機械を守り、トラブルを防止して品質事故、労災を起こさない!そんなキレイのある保全マンを目指しています。もちろん家庭も守ります!尊敬する“保守の師匠”笹島さんと一緒にパッチ!

事業活動と環境影響

雪印メグミルクでは、事業活動に伴う環境負荷状況を把握し、エネルギーや水、原材料、包装材料などの資源を効率的に利用する取組みを推進しています。

マテリアルフロー



私のチャレンジ
challenge

(株) YBS
ビル管理事業部
関和 元紀

お客様からは信頼され、社内からは期待される社員になれるよう、
2年目も笑顔を決やさず、がんばります！



雪印メグミルクグループの環境保全活動

リサイクル素材を使用した新作業着を採用

雪印メグミルクの工場等では、2013年4月より、ミルクの柔らかさと結束力を表現した淡いブルーと白の配色の新作業着を導入しています。素材には、ケミカルリサイクル技術※を活用したポリエステルを使用しており、古くなった作業着は化学的に分解され、新しいポリエステル繊維として再生させることができます。品質を劣化させることなく何度でも新たな作業着を製造することができるため、廃棄物を削減し、石油資源の使用の抑制にも貢献することができます。

作業着1トンをリサイクルした場合、石油から新たに原料を作成して作業着を作った時と比較して、CO₂排出量が約80%程度に削減できる素材を採用しました。

※ ケミカルリサイクル技術：廃プラスチック等を化学的に分解するなどして、化学原料に再生する方法。



リサイクル素材を使用した作業着

「エコプロダクツ2013」に参加

2013年12月12日～14日の3日間、15回目の開催となる「エコプロダクツ2013」（主催：一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社）が東京ビックサイト（東京都江東区）で開催され、17万人近くの来場がありました。エコプロダクツは、持続可能な社会の実現に向けて開発された最新の環境技術が紹介され、私たちが環境負荷の低いライフスタイルを営むためのヒントを紹介し、地球規模での環境保全と経済発展につながることを体感できるような展示を、参加企業・団体が行なっています。

雪印メグミルクは、10回目の参加となる全国牛乳容器環境協議会（容環協）のメンバーとして今回も参加しました。ご来場の皆さまには、牛乳パックの手開き体験や手すきはがきづくり体験、環境・リサイクルのワークショップなど、1,700人以上の方に参加していただき、牛乳パックのリサイクルの大切さと再生紙製品の利用促進についての啓発活動を行ないました。



エコプロダクツ2013の様子

紙パックリサイクルの取組み

全国牛乳容器環境協議会（容環協）

全国の乳業メーカー、飲料紙容器メーカー、団体会員、賛助会員など約160会員からなる、紙容器に関するリサイクル活動、環境保全に取り組んでいる団体です。

容環協の活動として、全国各地の小学校において「牛乳パックリサイクル出前授業」を開催し、子どもたちやその保護者に学びの場を提供しています。

雪印メグミルクグループでも容環協の活動と併せ、出前授業などを通して、紙パック回収率アップのための取組みを実施し、課題の共有化を図っています。



私のチャレンジ
challenge

努力には限度が無い！
雪印メグミルクファンが、一人でも多くなるように頑張ります！！

雪印メグミルク（株）
業務製品事業部 東北業務製品営業G
小島 互一朗

働きがいのある会社の 実現のために

従業員一人ひとりが自らの成長を実感して働きがいを感じられることが会社の発展につながっていると考え、その実現を目指して様々な施策を展開していきます。

従業員からのメッセージ

様々な社員がお互いの立場を理解して 支えあう

男女雇用機会均等法の施行が1986年、育児休業法の施行が1992年、育児・介護休業法の成立は1995年。振り返るとまさに時代と共に、2人の子育てと介護による休業を経て、今日まで歩んできました。

育児や介護に直面したとき、それはまさに綱渡りのような生活です。「綱からの転落=退職」を防ぐセーフティネットが、制度だと思います。法律にあわせて社内制度が充実し、それを利用できる環境にあったからこそ、今の自分があったのだと思います。そして、もうひとつ、綱渡りするために欠かせないのが勇気です。この勇気を後押しするのは、会社の上司、先輩、同僚、後輩、そして家族の「承認と理解」ではないでしょうか。私は多くの人に支えられて、今があることに感謝し、今後は少しでも支える側に立ちたいと思っています。

社会も、会社も確実に変化しています。女性、育児介護従事者（女性に限らず）、多国籍就労者、多様な労働形態など、様々な社員が互いの立場を理解して支えあうことが“ダイバーシティ”です。皆にとって働きがいのある会社の実現に向けて、一人ひとりが一歩を踏み出しましょう。そうすれば、すべての社員が働きがいを感じながら仕事に集中することができる、そんな雪印メグミルクグループの未来が実現すると信じています。



雪印メグミルク株式会社
ミルクサイエンス研究所 技術開発研究室
主席研究員

畑本 二美

「常に挑戦する人」を尊重し、成長・活躍・自己実現の場を提供

「人材育成=自己実現システム」の基本方針

当社の財産であり発展の原動力は「人」であることから、「人」の成長を通して「組織」の成長へつなげることを念頭に置き、以下の方針、取組みにより「常に挑戦する人」の育成を進めています。

基本方針

- ① 中期経営計画達成に向けた人材の育成を、経営状況を踏まえ、過去の育成手段に拘らず、知恵を出して工夫し推進する。
- ② 階層別研修を通して企業理念浸透をはじめ中期経営計画や階層に応じた自身の役割認識を高める。
- ③ 公募研修および自己啓発通信教育等による「挑戦」の機会提供を通して「自己実現」を支援する。

女性活躍推進研修

女性社員がより企業で活躍していくことを目指して、女性社員には仕事のスキルアップや意識醸成を、その上司には女性活躍の理解を深めてもらうために、女性社員とその上司を対象にした、女性活躍推進研修を実施しています。



上司を交えた女性活躍研修の様様。

女性活躍推進専用サイト「キラリ! 雪メグ WOMAN」

女性活躍推進の専用サイトを開設し、社内で活躍する女性社員の紹介や、出産や育児・介護等に関する社内制度の紹介をしています。



女性社員だけでなく男性社員にも読まれています。

自己啓発通信教育講座

人事理念の「常に挑戦者であること」に基づき、豊かな知識・技能・創造性を身につけるべく、通信教育による従業員育成支援を実施しています。2013年度は、950名を超える受講者がありました。今年度も内容を充実させ継続していきます。



通信教育ガイド
「ゆめ ゐる あなたへ」

階層別研修

「企業理念の浸透」、「中期経営計画や階層に応じた自身の役割認識」、「部門を越えた積極的な交流」を目的に各階層別研修を実施しています。

職制(主任・副主任)研修

工場・ロジスティクスセンターの職制(主任・副主任)を対象に、職場・ラインの責任者としての知識習得や職場運営のための研修を行なっています。



職場・ライン責任者としての知識習得に取り組んでいます。

新入社員研修

新入社員研修プログラムではビジネスマナー、会社の歴史・企業理念、会社の仕組み、商品知識、品質保証・衛生管理などを学び、社会人として、また雪印メグミルクの一員としての基礎力を養います。



新入社員も雪印メグミルクの一員として日々学んでいます。

私のチャレンジ
challenge

育児品営業で学んだ事を市乳課で最大限活用して、
広い視野で業務に臨みたい!

雪印メグミルク(株)
北海道統括支店 市乳課
齊藤 景介

活動報告

雪印メグミルクの食育活動

健康で笑顔あふれる生活のために

雪印メグミルクでは、消費者重視経営の7つの取り組みの1つとして、食育・普及活動「乳の食育 雪印メグミルク 食コミュニティ」を展開しています。「食の大切さと尊さ」、「牛乳・乳製品の価値」を子どもたちやお客様・消費者にお伝えし、「食」を通して人々の健康で笑顔あふれる生活を応援します。

「食の大切さと尊さ」を学ぶ5つの大切なポイント

食育は、栄養に関する知識だけを学ぶことではありません。豊かな自然からいただく命の恵みの尊さを感じ、それを五感で味わう感性を養うため「食の大切さと尊さ」を学ぶことです。雪印メグミルクは、そのために右の5つが大切なポイントであると考えています。



「乳の食育」を通して伝えたいこと

食の大切さと尊さ

- ① 食べることは私たちにとって極めて大切であり、特にバランスのよい食事を摂り、自分の身体を大切にすること。
- ② 食べものは自然の恩恵を受けた尊い資源であること。すべての食べものは自然からの恩恵であり、ほかの生き物の尊い命をいただいて、自分たちの生をつないでいること。

牛乳・乳製品の価値

- ① 牛乳・乳製品は、日本人に不足しているカルシウムを効果的に補う食品である。
- ② 牛乳・乳製品は「豊かな栄養価」や「おいしさ」を持ち、消費者の方々の豊かな食生活や健康づくりに貢献することができる食べものである。
- ③ 牛乳・乳製品は、乳牛の「命の恵み」を原料として「牧場（酪農）」や「工場（製造工程、品質管理）」などの現場を経て消費者に届けられ、そこに関わる人々によって大切に作られた食べものである。

牛乳の大切さを知ろう — 小中学校への出前授業 —

食育活動の一環として、小中学校への食育出前授業を、2013年度は全国の小中学校292校、733クラス、27,193名の生徒・保護者などを対象に行ないました。



お子様にもわかりやすく牛乳・乳製品の大切さをお伝えします。



食育出前授業 実施校一覧

<http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/class/list.html>

牛乳・乳製品の魅力を学ぶ — 各種セミナー —

社会人や学生などを対象として「牛乳・乳製品セミナー」をはじめ、「チーズセミナー」や「ヨーグルトセミナー」、「骨・カルシウムセミナー」など様々なセミナーを開催し、2013年度は全国で17,131名の方にご参加いただきました。



熱心に話を聴く参加者の皆さん。



セミナーのお申し込み

<http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/h-seminar.html>

牛乳・乳製品のおいしさと楽しさをご紹介します — 料理講習会 —

親子料理教室やPTA行事など、様々な方を対象に牛乳・乳製品を使った料理講習会を開催し、2013年度は全国で5,736名の方にご参加いただきました。



料理講習会のお申し込み

<http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/cooking.html>

おいしい料理を作りながら、親子の会話がはずみます。

私のチャレンジ
challenge

(株) エスアイシステム
DB事業部 運営部 運営課
塚本 美菜 小野田 鼓

新米の私達ですが、運営センターの“縁の下の力持ち”になれるよう、毎日笑顔で頑張っています！



地域・社会への取組み

ジャンプ大会の協賛を通してスポーツ振興に貢献

雪印メグミルクでは、スキー部の活動と各種スキージャンプ大会への協賛を通してスポーツの振興に貢献しています。若手ジャンパーの登竜門とされている「雪印メグミルク杯 全日本ジャンプ大会」(毎年1月開催)では男女中学生を対象に「特別奨励賞」を贈呈しています。さらに、小中学生のジュニアジャンパーの活躍の場を増やすために2011年より「雪印メグミルク杯 ジュニアサマージャンプ大会」に協賛しています。

またスキー部では監督・コーチらが子どもたちへの指導をお手伝いしています。これらの活動を通してより多くのジュニアジャンパーを応援していきます。



いざ、ティクオフ!

ソチオリンピックでのスポーツ貢献

2014年2月に開催されたソチオリンピックに、スキージャンプ男子日本代表5名のうち、雪印メグミルクスキー部から渡瀬雄太選手・伊東大貴選手・清水礼留飛選手の3名が選ばれ活躍しました。特にジャンプ団体では銅メダルを獲得し、日本中を沸かせてくれました。スキー部の活動を通じてスポーツの振興に貢献していきます。



長野オリンピック以来、16年ぶりのメダル獲得!写真左より清水礼留飛選手、一人おいて伊東大貴選手。(いずれも当社所属)

こどもの国牧場に新牛舎が完成

こどもの国牧場は、天皇陛下のご成婚記念事業として1965年に開園した「こどもの国」内で、雪印こどもの国牧場が運営を行っている牧場です。2015年のこどもの国開園50周年を前に、2013年11月より牛舎の建替え工事を行ない、2014年3月末に完成しました。

新牛舎は、明るく風通しの良い構造で、牛たちにとっても快適な環境となり、見学のお客様にとっては牛舎内の見学通路から牛や酪農の仕事を目の当たりにできる施設となりました。

雪印こどもの国牧場は、酪農教育ファームとして毎年約1,300名に牛や酪農のお話、搾乳体験などを実施しており、酪農への理解促進を通じて、雪印メグミルクグループの企業理念の実現に努めています。



雪印こどもの国牧場 新牛舎

国際酪農連盟ワールド デイリー サミット2013に参画

2013年10月、「国際酪農連盟ワールド デイリー サミット 2013」が横浜で開催され、当社はプラチナスポンサーとして協賛・参加しました。本サミットは世界の酪農・乳業の課題や成果を共有し、将来の発展につなげる場として毎年開催されており、日本での開催は22年ぶりとなります。開会式では中野社長が日本の乳業関係者を代表してサミットのテーマである「ミルクの再認識」に関するあいさつを行ない、当社は、「酪農生産」、「栄養・健康」、「マーケティング」分野での研究発表、展示ブースなどで企業理念や沿革などの紹介を行ないました。



乳の機能についての研究発表

【北海道包括連携協定】【さっぽろまちづくりパートナーシップ協定】

雪印メグミルクグループは、北海道と包括連携協定を締結し、「酪農の振興」、「食の安全・安心」、「子育てや健康づくり」、「北海道の観光振興」などの分野で協働して取組みを実施しています。ナチュラルチーズ製造研修や、学校などでの酪農出前授業、酪農と乳の歴史館などでの家庭教育サポート事業などを行ない、酪農乳業の振興に貢献しています。

また、「さっぽろまちづくりパートナーシップ協定」では、「健やかなこどもの成長のためのまちづくり」という観点で、札幌市との連携を図っています。円山動物園での協力や、市役所前花壇の設置、イベント協力など様々な取組みを行なっています。



「親子でやってミルク体験ランド」でのチーズづくり体験の様子。



小学校での酪農出前授業の様子。

雪印メグミルク夏休みファミリーミュージカルを開催

「雪印メグミルク夏休みファミリーミュージカル」を2013年8月にメルパルク大阪にて開催しました。子どもの体の健康だけではなく、健全な心の成長を願って毎年開催しています。本年も3回の公演でおよそ2,200名のお客様にコンサートとミュージカルのステージをお楽しみいただきました。



夢と感動をお届けしました。

外部有識者を構成メンバーに加えた企業倫理委員会の設置、社外取締役の選任などにより、経営に対する監視・監督機能の強化を図っています。

株主総会

選任・解任

取締役の選任・解任

監査役の選任・解任

会計監査

監視・監査

取締役会 (取締役・社外取締役)

選任・監督

付議・報告

代表取締役

CSR委員会

経営執行会議

監督

報告

指揮・命令

付議・報告

指議・命令

担当取締役

指議・命令

執行役員

報告

指議・命令

社内各部門

内部監査

内部監査部門

指議・命令

報告

企業倫理委員会

品質部会
消費者部会
表示部会

品質部会監査

報告

提言・勧告
実施状況検証

選任

会計監査人 (監査法人)

会計監査

グループ社長会

指導・監督

連携

内部監査

グループ監査役会

調査

グループ会社

部長を委員とし、原則年2回委員会を開催しています。委員会ではグループが取り組んでいるCSR活動の年度総括と次年度の活動目標および活動方針を定めています。

〔社外の目〕

企業倫理委員会

取締役会

共有化

CSR委員会

CSR部(事務局)

役員ミーティング

グループ16社

CSRグループ

各社、自主計画に基づき CSR活動を実施

各CSRリーダー ➡ CSRグループ 70グループ

グループごとにCSRリーダーを中心に活動

CSR委員会協議事項

- 1 CSRの推進体制に関する事項
- 2 CSRの活動目標に関する事項
- 3 CSR活動の取組み状況の進捗管理
- 4 その他CSRに関する事項

企業倫理委員会 ― 社外の目 ―

企業倫理委員会は、社外の有識者・労働組合代表および社内委員によって構成されています。この委員会は取締役会の諮問機関として、原則毎月1回の定例委員会を開催しています。そこでは、経営全般に対する「社外の目」による検証や提言がなされ、それらは経営に活かされています。なお、企業倫理委員会には、品質部会、消費者部会、表示部会の3つの専門部会があります。

第5期企業倫理委員会・専門部会 委員一覧 P41

品質・衛生管理の徹底を監査しています ― 品質部会 ―

工場の品質管理、衛生管理の徹底およびレベルアップを目的として、その道のエキスパートである専門委員が実際に工場へ赴き、監査を実施するとともに、現場担当者との意見交換などを行なっています。工場では、監査での指摘事項や推奨事項に対して改善策を取りまとめ、企業倫理委員会への報告を行なっています。



社外の目でご意見をいただいています。



厳しい目でチェックがなされています。

消費者重視経営を実践する取組み ― 消費者部会 ―

消費者部会は、企業理念の3つの使命の1つである「消費者重視経営」を実践するために社外の声に耳を傾け、その声を経営に反映させていこうとする取組みを行なっています。部会では、消費者団体の代表者の皆様に雪印メグミルクグループの取組みをお伝えし、消費者目線で評価いただき、また貴重なご意見をいただきます。

2013年度はお客様モニター[※]にご参加いただき、食品リサイクルやアレルギー表示をテーマとして意見交換を行ないました。

※P12参照

企業倫理委員会消費者部会に参加いただいている主な団体一覧 P42



新たな取組みに向け活発な意見交換がなされました。(左：関東・右：関西)

消費者視点で表示の確認を行なっています ― 表示部会 ―

表示部会では、消費者視点で商品パッケージなどの表示の点検・確認を行ない、問題があるものについては、会社に提言し改善しています。

点検の際には、商品のパッケージや各種販促物などの表示が消費者に誤解や誤認を起こすことがないか、わかりやすく信頼される情報を提供できているか、確認を行なっています。



消費者にとってよりわかりやすい表示にしていけるために熱心な討議がなされています。

コンプライアンス

雪印メグミルクグループ行動規範、雪印メグミルク行動基準

雪印メグミルクグループ行動規範は、雪印メグミルクグループが社会的責任を果たしていく上での行動の基本を示したものです。また、行動規範を具体的にして、遵守すべき事項を取りまとめたものが、雪印メグミルクグループの各社

が制定した自主行動基準です。雪印メグミルクグループの役員・従業員は行動規範と自主行動基準を全ての活動の基本としています。

雪印メグミルクグループ行動規範

私たち、雪印メグミルクグループは、社会に対して果たしていくべき自らの責任を自覚し、社会とともに成長していくことができるように、以下の通り行動いたします。

- 私たちを取りまく全ての人たちの気持ちを大切に、誰からも信頼されるように行動します。
- 品質管理を徹底し、安全で良質な商品・サービスを提供します。
- コンプライアンスを徹底し、公正で透明性のある企業活動を行ないます。
- 会社の財産および情報の保全・管理を徹底するとともに第三者の権利を尊重します。
- 企業活動を通して、社会貢献と環境保全に取り組みます。
- 自由と革新にあふれた企業風土を構築し、安全で働きがいのある職場環境をつくりまします。

食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動 ～雪印の事件を風化させない～

「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動～雪印の事件を風化させない～」は、当社の前身の一つである雪印乳業グループが起こした2つの事件（「雪印乳業食中毒事件」、「雪印食品牛肉偽装事件」）の本質的問題を常に認識して教訓とし、風化させないため、そして食品を扱う会社の役職員として、食の責任を強く認識し果たしてい

くことを誓うために、毎年、2つの事件が発生した6月と1月に実施しています。

具体的には、社外有識者による講演、品質に関する理解度テストの実施、および食中毒事件当時の報道番組を編集した映像を視聴し、二度と同様の事件を起こさないことを全役職員が確認する活動です。

2つの事件について P42



社長から風化させない決意を社員に伝えます。



食品に関するリスクについて語る唐木英明先生（2013年6月）講演テーマ「リスクを管理する その限界と対策」



メディア情報について語る小島正美先生（2014年1月）講演テーマ「メディア情報と危機管理」

宣誓書の提出

雪印メグミルクの全役職員は、雪印メグミルク行動基準を遵守する意思表示として、毎年10月に宣誓書に署名し、社長に提出しています。社長はCSR担当役員に提出します。

行動基準の遵守を誓い社長以下全役員も署名し、提出しています。

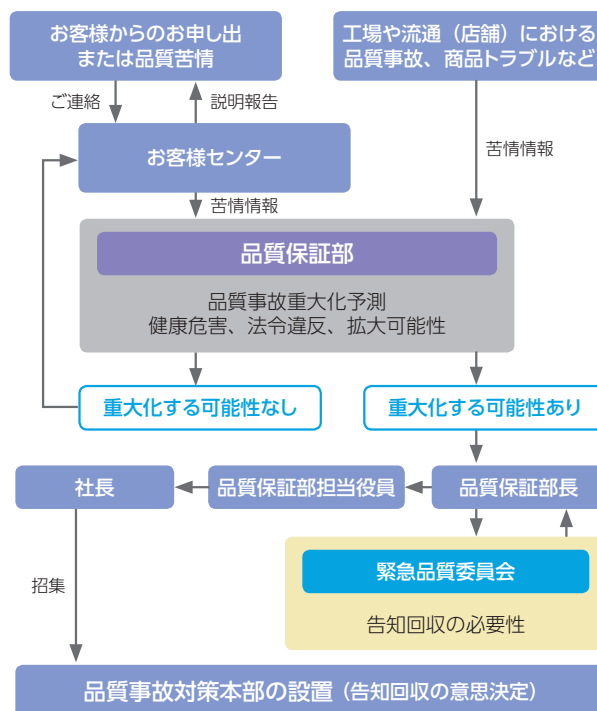


リスクマネジメント

品質事故の対応

雪印メグミルクは、商品の事故に迅速・適切に対応するために、危機管理体制を構築しています。日々のお客様からの申し出はお客様センターに一元化されます。その内、商品の品質に関わる情報は、品質保証部に伝えられます。同様に工場・店舗からの苦情情報も全て品質保証部に集約されます。その情報の中に健康危害、法令違反、事故拡大など重大化する可能性があるとは判断された場合には、緊急品質委員会を開催します。緊急品質委員会では、お客様の健康危害を最小限にとどめることを第一の目的とし、告知回収の必要性を含め、対応を検討します。その後、社長を対策本部長とする品質事故対策本部で告知回収の最終決定をします。

危機管理体制(品質事故対応)



内部通報制度

雪印メグミルクグループでは、グループ各社共用の社内通報相談窓口「雪印メグ Hotline」と社外通報相談窓口「社外（弁護士）Hotline」を併設しています。2つのHotlineとも、公益通報および公益通報以外の法令違反、社内規定違反や社会から非難を受ける恐れのある重大な行為が発生した場合だけでなく、業務上のちょっとした疑問・相談・提案なども制限を設けず受け付けています。

雪印メグミルクグループ各社では、機会あるごとに「Hotline」の活用を呼びかけています。

Hotline通報件数の推移

内容	2010		2011		2012		2013	
	社内	社外	社内	社外	社内	社外	社内	社外
人間関係について	10	0	8	0	7	2	11	1
品質について	0	1	0	0	1	0	0	0
風土改革について	1	0	0	0	2	0	0	0
コンプライアンスについて	8	1	8	1	3	1	5	1
職場での問題行動について	5	0	6	0	1	0	5	0
社内制度や仕組みへの疑問	6	1	9	0	4	1	3	0
その他	5	1	3	1	2	0	6	0
合計	35	4	34	2	20	4	30	2

社内：雪印メグ Hotline [グループ社内通報相談窓口]
社外：社外(弁護士)Hotline [社外通報相談窓口]

商品の安定供給

雪印メグミルクグループは、東日本大震災の後、広域に及ぶ激甚災害が発生した場合を想定し、そのような中でもお客様へ商品・サービスをお届けするための仕組みを構築しました。

- 被災状況をより迅速かつ詳細に把握するために、現行の通信手段に加えて新たな通信手段を導入しました。
- 事業を継続するために必要な重要業務を担当する事業所が被災した場合は、重要業務の早期再開に向けて、被災していない事業所での代替対応手順を明確化しました。
- 商品の製造に必要な原材料は、供給拠点の複数化や代替品の調達などに向けた体制を整えました。
- 商品の輸送については、交通インフラおよび取引先の被災状況の把握に向けた連絡体制を構築するとともに、配送要員・車輛・燃料確保に向けた体制を整えました。

継続的成長を実現する戦略設備投資

効率的な生産物流体制を構築し、継続的成長を実現するために投資してきた阿見工場と海老名工場が、稼動を開始しております。今後、販売物量の拡大と安定供給を図るとともに、高い生産性、品質、技術力を実現してまいります。

阿見工場

阿見工場は、横浜チーズ工場、関西チーズ工場、厚木マーガリン工場の3工場を集約し、プロセスチーズとマーガリン類を一括して製造する乳製品統合工場として建設されました。

従来の生産機能を高度に発展させ、また原料から商品までを一貫して製造管理できるサプライチェーンマネジメントを実現できる工場です。

2014年3月から家庭用プロセスチーズとマーガリン類の生産が始まりました。現在は、2014年度下期の全面稼動を目指し、製造設備の建設を進めています。

阿見工場 概要

敷地面積：約134,000㎡

総延床面積：約60,500㎡

製造品目：プロセスチーズ、マーガリン類

総従業員数：約500名



工場全景



阿見工場

海老名工場

海老名工場では、生産能力の増強と関東エリアにおけるチルド飲料生産体制の整備を目的に2期にわたる工事を行ない、2014年4月に全ラインが稼動しました。

この設備投資により従来の2倍以上の生産規模となり、日本で最大級の市乳工場となります。

海老名工場 概要

敷地面積：約48,950㎡

総延床面積：約53,600㎡

製造品目：牛乳、乳飲料、ポーションクリーム、発酵乳、果汁・清涼飲料、クリーム

総従業員数：約380名



PR棟入口



海老名工場

雪印メグミルクグループの概要

商号	雪印メグミルク株式会社 MEGMILK SNOW BRAND Co.,Ltd.
事業内容	牛乳、乳製品および食品の製造・販売等
本店所在地	(登記上本店) 北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 (本社) 東京都新宿区本塩町13番地
設立年月日	平成21年(2009年)10月1日
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 中野 吉晴
資本金	200億円
決算期	3月31日

人事データ

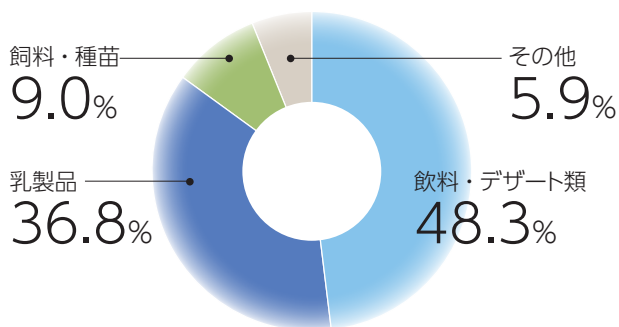
P42

連結経営成績

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2014年3月期	544,907	11,241	9,758	2,569
2013年3月期	522,987	15,009	16,384	9,600

品目別売上構成



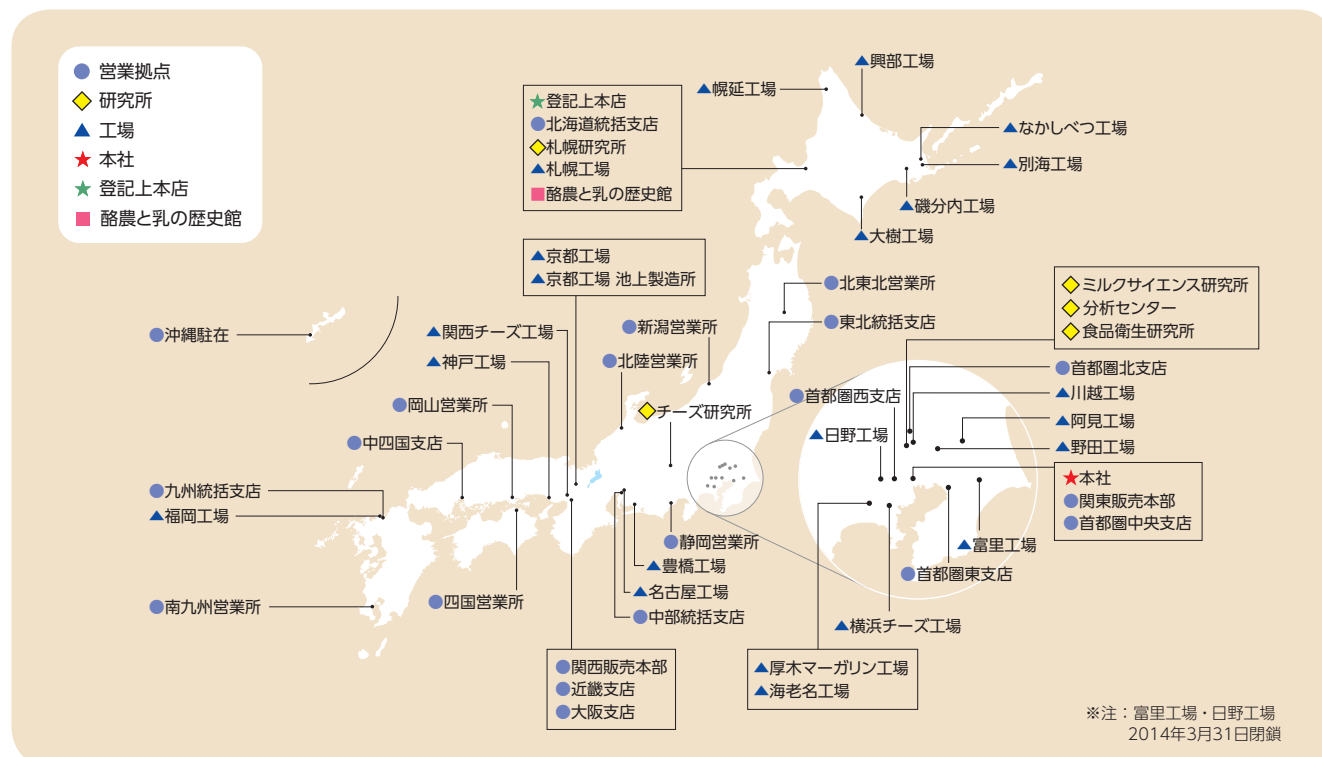
事業内容について

事業内容および事業の種類別セグメントは、下表のとおりです。

事業区分	主な製品	会社
乳製品事業 (合計12社)	乳製品(チーズ・バター・粉乳等)、 油脂(マーガリン等)、 育児品(乳児用調製粉乳)等	雪印メグミルク(株)、ビーンスターク・スノー(株)、ハケ岳乳業(株)、甲南油脂(株)、チエスコ(株)、 (株)エスアイシステム、雪印オーストラリア(有)、台湾雪印(株)、三和流通産業(株)、雪印タイ(株)、 イーエヌ大塚製薬(株)、協同乳業(株)
飲料・デザート類事業 (合計7社)	飲料(牛乳類、果汁飲料等)、 ヨーグルト、デザート類	雪印メグミルク(株)、ハケ岳乳業(株)、(株)エスアイシステム、いばらく乳業(株)、みちのくミルク (株)、三和流通産業(株)、協同乳業(株)
飼料・種苗事業 (合計2社)	牛用飼料、牧草・飼料作物種子、 野菜種子等	雪印種苗(株)、道東飼料(株)
その他事業 (合計15社)	不動産賃貸、 共同配送センター事業等	雪印メグミルク(株)、(株)クレスコ、(株)雪印パーラー、(株)YBS、(株)エスアイシステム、ニチラク 機械(株)、(株)ロイヤルファーム、三和流通産業(株)、直販配送(株)、北網運輸(株)、日本ポート産業 (株)、日本乳品貿易(株)、(株)アミノアップ化学、(株)雪印こどもの国牧場、グリーンサービス(株)

事業所一覧

(2014年3月31日現在)



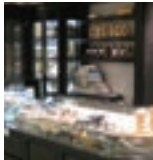
雪印メグミルクグループ グループ会社紹介

(2014年3月31日現在)



雪印種苗 (株)

設立	昭和25年12月	資本金	4,643百万円
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	北海道札幌市
代表者	川成 真美		
事業内容	種苗・農畜産物の生産および販売、飼料の製造および販売、造園事業、種苗の品種改良および試験研究		



チェスコ (株)

設立	昭和32年3月	資本金	472百万円
グループ計持比率	90.9%	本社所在地	東京都新宿区
代表者	西尾 啓治		
事業内容	ナチュラルチーズ・食料品・酒類・雑貨の輸入および製造・加工販売		



(株) エスアイシステム

設立	平成9年1月	資本金	400百万円
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	東京都渋谷区
代表者	佐藤 佳嗣		
事業内容	チルド・フロースンを中心としたベンダー、マーチャンダイジングと共配センター運営事業		



ハケ岳乳業 (株)

設立	昭和29年1月	資本金	60百万円
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	長野県茅野市
代表者	藤田 昭雄		
事業内容	牛乳・加工乳・乳飲料・発酵乳の製造および仕入れ・販売、チーズの加工、運送・取扱業		



直販配送 (株)

設立	昭和55年4月	資本金	30百万円
グループ計持比率	70.0%	本社所在地	東京都渋谷区
代表者	齊藤 耕司		
事業内容	共同配送センターの運営事業、チルド商品配送事業、一般貨物運送事業		



雪印オーストラリア (有)

設立	平成4年12月	資本金	22百万A\$
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	メルボルン(オーストラリア)
代表者	菅野 宏行		
事業内容	育粉、ナチュラルチーズの製造・販売、乳製品の輸出入		



いばらく乳業 (株)

設立	昭和34年1月	資本金	118百万円
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	茨城県水戸市
代表者	長谷川 敏		
事業内容	牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売		



(株) クレスコ

設立	昭和23年8月	資本金	38百万円
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	東京都北区
代表者	佐野 和生		
事業内容	食品資材・軟包装・紙器・容器などの仕入販売		



みちのくミルク (株)

設立	平成8年10月	資本金	467百万円
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	宮城県大崎市
代表者	小原 勝義		
事業内容	牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売		



三和流通産業 (株)

設立	昭和29年1月	資本金	450百万円
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	竹本 行雄		
事業内容	日配チルド食品等の卸売事業、共配センター事業		



ビーンスターク・スノー (株)

設立	平成14年8月	資本金	500百万円
グループ計持比率	80.0%	本社所在地	東京都新宿区
代表者	澤田 健五		
事業内容	育児用粉乳・離乳食などの育児関連商品および機能性食品などの研究開発・製造・販売		



台湾雪印 (株)

設立	平成4年12月	資本金	7百万NT\$
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	台北 (台湾)
代表者	小原 康嗣		
事業内容	育児用粉乳、乳製品等の輸入・販売		



(株) YBS

設立	昭和46年4月	資本金	30百万円
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	東京都新宿区
代表者	西馬場 茂		
事業内容	ビルの総合保守管理、建築業務、損害保険代理業、営業・管理・生産品質等の各種ビジネスサポート業務		



ニテラク機械 (株)

設立	昭和29年4月	資本金	50百万円
グループ計持比率	67.6%	本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	大岡 実		
事業内容	食料品製造を主体としたプラントおよび機械の設計、製造、施工、販売、修理およびメンテナンス		



グリーンサービス (株)

設立	昭和55年11月	資本金	30百万円
グループ計持比率	70.0%	本社所在地	東京都調布市
代表者	町田 幸司		
事業内容	共同配送センター運営事業、一般貨物運送事業、自動販売機事業		



(株) 雪印パーラー

設立	昭和36年4月	資本金	30百万円
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	北海道札幌市
代表者	小川 澄男		
事業内容	食堂・売店経営、乳製品などの販売		



道東飼料 (株)

設立	平成13年7月	資本金	300百万円
グループ計持比率	60.0%	本社所在地	北海道釧路市
代表者	橋場 義孝		
事業内容	配合飼料の製造・販売		



(株) ロイヤルファーム

設立	平成13年2月	資本金	10百万円
グループ計持比率	48.5%	本社所在地	青森県十和田市
代表者	寺栖 喜久男		
事業内容	肉用牛の生産・販売		



(株) 雪印こどもの国牧場

設立	昭和40年8月	資本金	10百万円
グループ計持比率	100.0%	本社所在地	神奈川県横浜市
代表者	斎藤 常吉		
事業内容	牧場運営、牛乳の製造、食堂・売店経営		



甲南油脂 (株)

設立	平成4年7月	資本金	100百万円
グループ計持比率	51.0%	本社所在地	兵庫県神戸市
代表者	岡田 佳男		
事業内容	マーガリン類等の製造販売		



雪印メグミルクグループ 各社CSRリーダーからのメッセージ

CSRの確立に向けて、グループ各社でも
CSRリーダーを中心にCSR活動を推進しています。

雪印種苗(株)



人事総務部
総務課
山崎 伸明

全ての行動の規範である「雪印種苗行動基準」を一人ひとりに浸透・定着をテーマに、CSRの3つの側面（経済・環境・社会）においてバランス良く活動し、農業振興と環境保全に貢献します。

直販配送(株)



CSR推進部長
忍田 行廣

CSR経営の全社取組みを進めるとともに、チルド物流34年の経験を生かし、安心品質の物流で、信頼と満足をお届けします。

みちのくミルク(株)



取締役
総務部長
庄子 慶之

当社は、工場見学者の受け入れを積極的に行なっております（年間約4千名）。また、毎年地元で開催される「牛乳消費拡大キャンペーン」等に参画し牛乳およびデザートを提供しております。

(株)YBS



代表取締役
専務
福山 光一

事業所周辺の清掃活動、ペットボトルキャップの回収、本社照明のLED化、清掃業務での知的障がい者インターンシップ受け入れ等、業務に直結した社会貢献を推進しています。

道東飼料(株)



品質管理担当
今田 裕之

常に安全・安心で高品質な養牛用飼料・代用乳を生産して畜産農家にお届けし、安心しておいしい牛乳・牛肉を生産して頂けるよう日々全社員一丸となって頑張っております。

チェスコ(株)



取締役
管理本部長
佐藤 祐一

世界からの美味しいチーズをお届けし、食卓を豊かにすることが私たちチェスコの使命です。厳選したナチュラルチーズをとり揃え、全国のショップで皆様のお越しをお待ちしております。

雪印オーストラリア(有)



管理部長
来栖 淳

雪印メグミルクグループの知識を結集して作られた粉ミルクやチーズを製造し、アジア・豪州に安心・安全な商品をお届けすることで社会に貢献いたします。

三和流通産業(株)



業務部長
西口 幸雄

当社は1954年創業以来、安心して楽しく召し上がっていただくチルド商品を提案しお届けしてきました。これからも、お客様の喜ぶ顔を通して社会に貢献していきます。

ニテラク機械(株)



総務部 課長
野田 竜介

「酪農・乳業への貢献」を目的として、六次産業化を目指す酪農家にチーズをはじめとする乳製品の製造技術・機器を提供しているエンジニアリング会社です。

(株)ロイヤルファーム



業務部
豊川 雅章

子会社として(株)RFベンケル牧場と(株)RF青森牧場を新設立。安心、安全で美味しい牛肉づくりを実践します。

(株)エスアイシステム



管理部 部長
町田 良孝

当社は、2009年からエコキャップ運動に参加していますが、ペットボトルキャップの回収により、昨年度は約770kgのCO₂削減に貢献しています。

いばらく乳業(株)



製造第1課長
後藤 照行

1959年創業以来、「健康・安全」に心がけ食文化の向上・発展を目指し、「いばらく」に集う人々との調和・つながりを大切にしながら社会貢献に取り組んでいます。

ビーンスターク・スノー(株)



代表取締役付
部長
高木 宏尚

安心してお使い頂ける粉ミルクの提供を柱に、機能性食品など新たなご期待にもお応えし、乳の価値を高めて世の中のお役に立てるよう事業活動に取り組んでいます。

グリーンサービス(株)



業務部長
佐藤 勇

殺菌乳輸送を始めて19年、ユーザーに応えるべくISO 9001を取得。又全車にドライブレコーダーを搭載して、エコドライブ、事故防止に役立っています。

(株)雪印こどもの国牧場



総務企画部長
山口 雅也

牛をはじめとする沢山の動物たちに囲まれ、子供たちの歓声や赤ちゃんの泣き声に包まれて、知らず知らずのうちに癒される空間となっています。

ハケ岳乳業(株)



経営管理部長
宮坂 定幸

1954年創業以来、「安全・安心」をモットーに努力研鑽を積み重ねてきました。「ハケ岳の自然を、そのままご家庭へ」、ハケ岳乳業はより良い食文化の創造を目指していきます。

(株)クレスコ



管理部
担当部長
高橋 政俊

当社は、60年余の包装資材の取扱いで培った知識やノウハウに基づいて、経済や環境へ配慮した提案を継続的にかつ誠実にこなすことで、社会に貢献していきます。

台湾雪印(株)



経理
(台湾では部長の
意)
楊 文海

法規遵守だけでなく+αの取組みを心がけています。最近では再生紙販促物などを使用し、更にCO₂の減少に取り組んでいます。

(株)雪印パーラー



業務部
課長兼本店店長
山上 純

お客様満足度向上のため、定期的に社内での従業員研修を行なっています。また、社外での研修(接客・フレーム対応等)にも積極的に参加しています。

甲南油脂(株)



生産部長
町田 亮二

阿見工場が操業開始して甲南油脂の役割も若干変わっていくものと思われしますが、今後も様々なチャレンジでグループ会社の一員として貢献したいと考えています。

国際規格ISO26000と雪印メグミルクグループ活動との対比

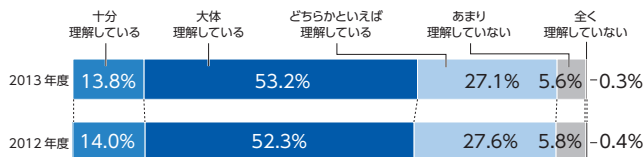
2010年11月に発行されましたCSRに関する国際規格であるISO26000「社会的責任に関する手引」に掲げられている7つの中核主題ごとに「活動報告書2014」に掲載している取組内容を整理し、「ISO26000との対比表」を作成しましたのでご参照ください。

7つの中核主題	当社取組み内容	
1 組織統治	雪印メグミルクグループ企業理念	P1
	コーポレート・ガバナンス体制の構築	P31、32
	企業倫理委員会の設置	P32、41、42
	ホットライン（社内・社外）の設置・運営	P34
	CSR社員アンケートによるリスクの把握	P8、40
2. 人権 3. 労働慣行	人材育成研修等の実施	P28
	女性活躍推進に向けた取組み	P28
	自己啓発通信教育講座	P28
4. 環境	環境方針の策定	P22
	環境マネジメント体制の確立	P22
	ISO14001認証の取得	P23
	環境監査の実施	P23
	廃棄物・食品廃棄物の発生量削減、エネルギー使用量の削減	P24
	温暖化ガス排出削減	P24
5. 公正な事業慣行	雪印メグミルクグループ行動規範、雪印メグミルク行動基準の策定	P33
	行動基準の定着、徹底を主目的としたCSRグループ活動の実施	P8
	行動基準遵守宣誓書への署名、提出	P33
	「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動」の実施	P33
6. 消費者課題	雪印メグミルク品質保証方針の策定	P11
	雪印メグミルク品質保証システム（MSQS）の構築と運用	P11
	品質と安全性の管理運用を確認するための監査の実施	P11
	危機管理体制（商品事故発生時の対応）の構築	P34
	企業倫理委員会・品質部会・消費者部会・表示部会の開催	P32、41、42
	お客様センターの設置および運営	P13
	お客様モニター制度の実施	P12
	お客様満足向上ミーティングの開催	P12
	小中学校への出前授業、料理講習会、各種セミナーの開催	P29
	酪農と乳の歴史館、工場見学の実施	P40
7. コミュニティへの参画 およびコミュニティの発展	酪農生産への貢献	P16
	スキージャンプなどスポーツを通じた次世代育成	P30
	北海道包括連携協定に基づく取組み	P30
	夏休みファミリーミュージカルの開催	P30
	こどもの国牧場の運営	P30

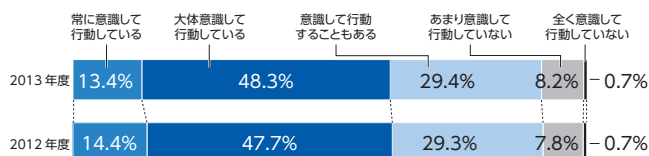
P8

雪印メグミルク CSR社員アンケート結果（抜粋）

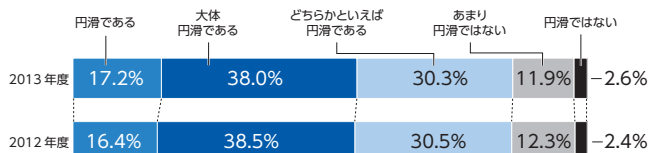
Q. あなたは「雪印メグミルクグループ企業理念」を理解していますか？



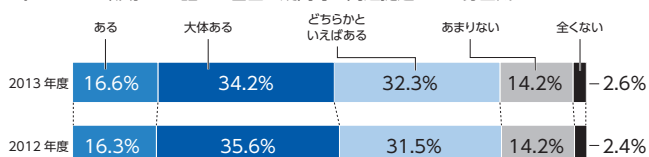
Q. あなたは「雪印メグミルク行動基準」を意識して行動していますか？



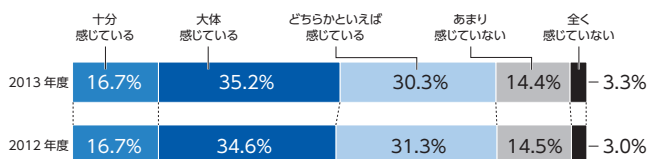
Q. あなたの職場のコミュニケーションは円滑ですか？



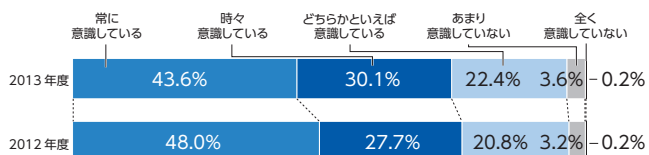
Q. あなたの職場では、誰もが自由に疑問等を問題提起できる雰囲気がありますか？



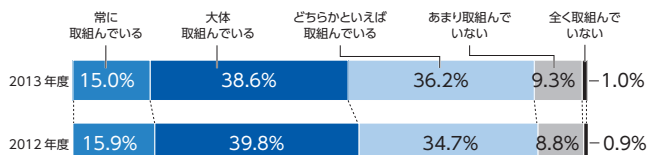
Q. あなたは、今の仕事にやりがいを感じていますか？



Q. あなたは、仕事の内容にかかわらず、業務を行なう際に「食の責任」を意識していますか？



Q. あなたは、MSQSのしくみに基づいて品質管理の徹底に取り組んでいますか？



アンケート結果（％）は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

P16

酪農諮問委員会 委員一覧

任期：2014年4月1日～2016年3月31日

諮問委員	まつした たかゆき 松下 隆之	元JA道東あさひ 理事、酪農生産者
	くろさわ かんじゅ 黒沢 寛寿	全国酪農青年女性会議 顧問、酪農生産者
	まつお ようじ 松尾 要治	元全国農業協同組合連合会 酪農部長
	すすき のぶひろ 鈴木 宣弘	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
	やまか まさみつ 矢坂 雅充	東京大学大学院経済学研究科 准教授
	こばやし しんいち 小林 信一	日本大学生物資源科学部 教授

前期(2012年4月1日～2014年3月31日)まで委員をお務めいただいた澤弘之氏(元全農ミート(株)代表取締役社長)は2014年3月31日をもって退任され、今期松尾要治氏が新たに就任されました。

見学いただける工場・歴史館の連絡先

日本の酪農・乳業
に關わる史料

雪印メグミルク（株）酪農と乳の歴史館
北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 TEL：011-704-2329

牛乳類

雪印メグミルク（株）札幌工場
北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 TEL：011-704-2329
(受付は雪印メグミルク(株)酪農と乳の歴史館で行なっています。)

ナチュラル
チーズ

雪印メグミルク（株）なかしべつ工場
北海道標津郡中標津町丸山2丁目9番地 TEL：0153-72-3281

ナチュラル
チーズ

雪印メグミルク（株）大樹工場
北海道広尾郡大樹町緑町35 TEL：01558-6-2121

牛乳類・
デザート

みちのくミルク（株）本社工場
宮城県大崎市岩出山下野目字八幡前60-1 TEL：0229-72-2011

牛乳類・飲料・
はつ酵乳

雪印メグミルク（株）野田工場
千葉県野田市上三ヶ尾字平井256-1 TEL：04-7122-2246

牛乳類・飲料・
はつ酵乳

雪印メグミルク（株）海老名工場
神奈川県海老名市中新田5丁目26番1号 TEL：046-240-6300
(2014年7月下旬より開始予定)

デザート・
クリーム

雪印メグミルク（株）豊橋工場
愛知県豊川市伊奈町南山新田350番地79 TEL：0533-78-3711

牛乳類・
はつ酵乳

雪印メグミルク（株）京都工場
京都府南丹市八木町美里紫野1番地 TEL：0771-43-2150

牛乳類・飲料・
はつ酵乳

雪印メグミルク（株）京都工場 池上製造所
京都府南丹市八木町池上古里1番1 TEL：0771-42-6871

牛乳類・
飲料

雪印メグミルク（株）神戸工場
兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和824-1 TEL：078-912-2121

●工場・歴史館の見学のご案内

工場・歴史館の見学をご希望の場合は、お手数ですが、あらかじめ各工場・歴史館にお電話でご予約願います。

第5期 企業倫理委員会・専門部会委員一覧

肩書きは2014年4月1日現在

社外委員	えざわ いくこ 江澤 郁子	日本女子大学名誉教授	医学博士・ 栄養学の有識者
	ひわき のぶこ 日和佐 信子	元 全国消費者団体 連絡会事務局長	雪印メグミルク (株) 社外取締役
	まつもと くにあき 松本 邦明	経営倫理実践研究 センター常務理事	企業倫理の有識者
	たかや さとし 高谷 幸	日本食品衛生協会 専務理事	品質の専門家
	おざわ りえこ 小澤 理恵子	元 日本生活協同組合連合会 共済事務センター 部長スタッフ	消費者関連の有識者
	やなせ しゅうじ 築瀬 捨治	長島・大野・常松法律事務所 弁護士	法律の専門家
	もりた まき 森田 満樹	消費生活コンサルタント	消費者関連の有識者
労働組合	とおやま じろう 遠山 二郎	労働組合中央執行委員長	労働組合の代表者
社内委員	いしだ たかひろ 石田 隆廣	代表取締役副社長	経営全般社長補佐 総務・秘書室・人事 担当
	つちおか ひであき 土岡 英明	取締役執行役員	CSR・広報・ 広域営業 担当
	えんどう さとる 遠藤 悟	取締役執行役員	生産統括・生産管理 副 担当(生産統括部長 委嘱)

1. 企業倫理委員会・品質部会委員

肩書きは2014年4月1日現在

社外委員	たかや さとし 高谷 幸	日本食品衛生協会 専務理事	品質部会長 企業倫理委員会 委員兼任
	さとう くにひろ 佐藤 邦裕	元 日本生活協同組合連合会 本部長スタッフ 品質管理担当	品質部会委員専任
	こぬま ひろたか 小沼 博隆	元 東海大学教授・医学博士 HACCPの専門家	品質部会委員専任
	もりた まき 森田 満樹	消費生活コンサルタント	企業倫理委員会 委員兼任
社内委員	さいとう けんいちろう 齋藤 健一郎	品質保証部副部長	表示部会委員兼任

2. 企業倫理委員会・消費者部会委員

肩書きは2014年4月1日現在

社外委員	まつもと くにあき 松本 邦明	一般社団法人 経営倫理 実践研究センター常務理事	消費者部会長 企業倫理委員会委員兼任
	ひわき のぶこ 日和佐 信子	元 全国消費者団体連絡会 事務局長	企業倫理委員会委員兼任
社内委員	つちおか ひであき 土岡 英明	取締役執行役員	企業倫理委員会委員兼任

3. 企業倫理委員会・表示部会委員

肩書きは2014年4月1日現在

社外委員	おざわ りえこ 小澤 理恵子	元 日本生活協同組合連合会 共済事務センター部長スタッフ	表示部会長 企業倫理委員会委員兼任
	いたくら 板倉 ゆか子	消費生活アナリスト・放送大学 非常勤講師 元国民生活セン ター商品テスト部調査役	表示部会委員専任
	もりた まき 森田 満樹	消費生活コンサルタント	企業倫理委員会委員兼任
社内委員	こにし ひろあき 小西 寛昭	取締役執行役員 研究開発・商品開発・ ミルクサイエンス研究所・ 資材調達担当(研究開発部長委嘱)	表示部会委員専任
	さいとう けんいちろう 齋藤 健一郎	品質保証部副部長	品質部会委員兼任
	さかぐち こうじ 坂口 高司	CSR部長	表示部会委員専任

●平成26年度「企業倫理委員会提言」

平成26年度のスタートに際し、企業倫理委員会として下記の通り提言いたします。

1. 全役員・従業員が雪印メグミルクグループ企業理念の実現と、コンプライアンスの確立に向け、以下の項目に取り組みましょう。
 - (1) 日頃から各職場内および職場間において、双方向のコミュニケーションを深めるように意識して努めましょう。
 - (2) 一人ひとりが自覚し、積極的かつ責任を持った行動に努め、明るく活力のある会社をつくっていきましょう。
 - (3) 「雪印メグミルク行動基準」について、全役員・従業員が理解を深め、実践するための取組みを継続しましょう。
 - (4) 多くの女性従業員が現行の制度を活用し、経営職としても積極的に活躍できるよう職場づくりを推進しましょう。
2. 専門部会（品質部会・消費者部会・表示部会）の提言は、別添の各部会からの提言を参照願います。

●平成26年度「品質部会提言」

1. 品質トラブルおよび品質苦情の共有化を図り、製造工程における品質課題の解決に向けて、効果的な対策を推進しましょう。
2. 従業員一人ひとりの品質管理に対する意識向上を図ることが最重要課題です。
そのために教育・訓練を充実させましょう。特に、後継者教育の取組みを推進し、製造現場における技術の向上を図りましょう。
3. 5Sはルールを設定した目的を再認識し、継続して取組みましょう。
また、グループ全体のレベルアップを図りましょう。

●平成26年度「消費者部会提言」

雪印メグミルクは、消費者重視を経営の基本のひとつに位置づけています。

その観点から、下記の項目を着実に実行していきましょう。

1. 重要なステークホルダーである消費者との対話（ダイアログ）の場である消費者部会の充実・発展を図り、企業と消費者との協働による新しい取組みを継続させましょう。
2. 引き続き、消費者の声・意見・要望を傾聴し、誠実にこたえていきましょう。
また、消費者が知りたい情報を効果的に届ける情報発信を実践していきましょう。

●平成26年度「表示部会提言」

～消費者の適切な商品選択に資するために～

1. 商品の表示や広告等では、消費者が求める情報、消費者に伝えるべき情報を適切に判断し、「商品パッケージ任意表示基本マニュアル」に従い、消費者に誤認や誤解を与えないよう、正確に表現しましょう。
2. 平成25年度は新しく「食品表示法」が制定されました。今年度はその具体的な表示基準、表示方法等が定められます。その内容について関心を高め、食品を製造する事業者として実情を踏まえて行政に働きかけるなど、積極的に対応していきましょう。
3. 商品の表示や広告等での表現は、消費者重視経営を実践していく姿勢を示すものです。誤認や誤解を与えない正確な表示に取組んでいることを社内外に向けて、地道に伝えていきましょう。

●企業倫理委員会実施状況

対象期間：2013年4月～2014年3月

1.定例委員会(12回)

(1) 主な討議事項

- ・2013年度 企業倫理委員会提言について
- ・2013年度 新商品 商品別指摘事項について
- ・「雪印メグミルクグループ活動報告書2013」構成、内容について
- ・「雪印メグミルクグループCSR社員アンケート」内容と結果対応について
- ・企業倫理委員会討議テーマの検討

(2) 主な報告事項

- ・2014年3月期 決算報告(第1～4四半期)
- ・第9回CSR委員会実施内容
- ・「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動～雪印の事件を風化させない～」の実施報告
- ・商品の社告・自主回収の実施について
- ・第4期お客様モニターの実施について
- ・「雪印メグミルクグループCSR社員アンケート」結果報告
- ・2013年度企業倫理委員会提言に対する取組み進捗報告

(3) 月次定例報告事項

- ・部会実施報告(品質部会、消費者部会、表示部会)
- ・苦情分析結果報告(発生件数、苦情内容、発生原因、他)
- ・広報概況報告(社内外情報発信内容、お客様の声入電概要、マスコミ報道概況、他)
- ・CSRグループ活動実施概要
- ・ホットライン通報状況及び対応状況について

P32

企業倫理委員会消費者部会に参加いただいている主な団体一覧

関東	関西
主婦連合会	NPO法人京都消費生活有資格者の会
全国消費者団体連絡会	NPO法人コンシューマーズ京都
全国消費生活相談員協会	関西消費者協会
東京都消費者団体連絡センター	全大阪消費者団体連絡会
東京都消費者月間実行委員会	奈良県生活協同組合連合会
東京都地域婦人団体連盟	日本消費経済新聞社
日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会	日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 西日本支部
日本生活協同組合連合会	

団体名 50音順

雪印メグミルクグループの「活動報告書2014」へのご意見・ご感想をお聞かせください。

雪印メグミルクグループの「活動報告書2014」をご覧ください、ありがとうございました。本報告書についてのご意見・ご感想などをお聞かせください。今後の雪印メグミルクグループの企業活動や報告書作成に反映していきたいと考えております。お手数ですが、アンケート用紙にご記入の上、お送りいただけますようお願い申し上げます。

P33

2つの事件について

●雪印乳業食中毒事件

2000年6月に雪印乳業(株) 大阪工場製造の低脂肪乳などにより発生した食中毒事件。6月27日大阪市保健所に最初の食中毒患者のお申し出がありました。調査の結果、雪印乳業(株) 大樹工場で製造された脱脂粉乳が停電事故で汚染され、それを再溶解して製造した脱脂粉乳を大阪工場で原料として使用していたことがわかりました。その脱脂粉乳に黄色ブドウ球菌が産生する毒素(エンテロトキシン)が含まれていたことが原因でした。雪印乳業(株)は事件直後の対応に手間取り、商品の回収やお客様・消費者への告知に時間を要したため、被害は13,420人に及びました。この事件によって社会に牛乳・乳製品をはじめとする加工食品の製造に、不信と不安を抱かせるだけでなく、乳等省令についての乳業界の解釈と社会の理解との乖離が明らかになるなど、社会に対して大きな影響を与えてしまいました。

●雪印食品牛肉偽装事件

雪印乳業(株)の子会社であった雪印食品(株)が、国のBSE対策事業を悪用し、安価な輸入牛肉を偽って、国産牛肉として申請し、交付金を不正に受給したもので、明らかな詐欺事件。2002年1月23日の朝日、毎日両新聞に掲載されたことで発覚しました。背景には、前年のBSE牛発生に伴い、食肉業界全体で、消費者の牛肉買い控えによる大量の在庫を抱えるという状況がありましたが、最大の原因は、企業倫理に反した当事者の考えや上司の指示が根底にあったことです。事件発覚から3ヵ月後の2002年4月末に、雪印食品(株)は解散するに至りました。

P36

人事データ

2014年3月31日現在

	2012年度	2013年度	範囲または時点
社員数(連結)	4,922名	4,917名	連結会社計
社員数(単体)	3,151名	3,130名	
男性	2,737名	2,712名	雪印メグミルク(株)
女性	414名	418名	
女性管理職	8名	12名	雪印メグミルク(株)
女性管理職比率	1.13%	1.73%	(出向者を含む)
平均年齢	39.8歳	39.5歳	雪印メグミルク(株)
平均勤続年数	12.0年	12.1年	雪印メグミルク(株)
障がい者雇用率	1.98%	1.87%	雪印メグミルク(株)
育児休業利用者	27名	34名	
内育児休業男性社員利用者	8名	4名	
子育て支援休暇利用者	34名 (のべ93日)	33名 (のべ153日)	2013年度利用者数 雪印メグミルク(株)
看護休暇制度利用者	80名 (のべ310日)	63名 (のべ271日)	(出向者を含む)
短時間勤務制度利用者	24名	24名	

本誌をご希望の方は、雪印メグミルク(株)フリーダイヤルへご連絡願います。

●雪印メグミルク お客様センター

0120-301-369 (9:00～19:00 年中無休)

雪印メグミルク(株)ホームページでも、本報告書を公開いたします。

●CSRの確立に向けて > 活動報告書

<http://www.meg-snow.com/csr/report/>



未来は、ミルクの中にある。

雪印メグミルク



この報告書は、適切に管理された森林から生まれた[FSC®認証紙]を使用し、有害なVOC(揮発性有機化合物)成分が含まれていない植物油インキ、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷で印刷しています。また、本文用紙には「森の町内会」による間伐に寄与する紙を使用しています。

2014年6月発行